



クトウルフの呼び声  
リプレイ

# The Madman

7つの冒険『療養所の悪魔』

収録シナリオ

沢渡 祥子



## はじめに

この本は、テーブルトークRPGのプレイです。システムは「クトウルフの呼び声」。  
「テーブルトークRPG」及び「プレイ」に関する説明は、ここでは省きます。

テーブルトークRPGわからないという方は.....申し訳ありませんが、  
本文を読んで、感覚的に理解できるというならばいいのですが、  
わけがわからないという場合は、上記キーワードで検索でもかけてみてください。  
とりあえず前提として、今回は5人で遊んでおり、4人がそれぞれ自分の「キャラクター」  
を操作し、1人が物語の進行役を担っているという形です。

**ネタバレ注意報！ この先、オフィシャルシナリオのネタバレがあります。**

使用シナリオ：“クトウルフの呼び声”用の7つの冒険『療養所の悪魔』の収録シナリオ  
、“The Madman”

# キャラクターメイキング

## ■チャーリー 警官 30歳／男性

### 【能力値】

HP 13 MP 10 SAN 50 幸運50 知識50 アイディア 60  
STR 4 DEX 8 INT 12 CON 11 APP 9 POW 10 SIZ 15

### 【主な技能】

応急手当50%、隠れる30%、自動車運転40%、追跡40%、図書館40%、目星40%、雄弁25%、  
心理学15%、信用45%

### 【所持品】

屍食教典儀（フランス語）、黒の書（ドイツ語）、22口径リボルバー(命中30%)

チャーリー：（振り終わった能力値を見て）SIZ15なのに、STRが4ってどういうこと？

キーパー：つまり背高のつぼの痩せた奴。

デイヴ：もしくはすげえデブ。

チャーリー：それだー！ 背が高くてデブで、一人称は『僕』で、名前はチャーリー！ コーラ  
やマックをがつつがつつと。

オタコン：そういう奴こそ警官とかね。（笑）

チャーリー：そう、で、ゲイなんですよ！ ストリップ連れて行ってもらって一人ショボンとし  
ていて、『お前もっと楽しめよ』って言われて『僕、実はゲイなんです』と余計な  
カミングアウトを……！

キーパー：ちよ、ちよっと待ってくれ！ とりあえず小技は置いておけ。（笑）

チャーリー：いやいや、いけますよー！

ダイスの目に徹底的に見放され、素敵な能力値になったチャーリー。

出目のままのキャラを使用すると宣言したプレイヤーの男気に打たれたマスターは、  
2冊の魔導書と1本の短剣を渡してくれました。

それらは彼自身には使いこなせないシロモノですが、他の探索者が活用しています。

## ■デイヴィッド・ブランフォード マフィア 33歳／男性

### 【能力値】

HP 14 MP 14 SAN 70 幸運70 知識45 アイディア 80  
STR 15 DEX 11 INT 16 CON 13 APP 18 POW 14 SIZ 14

### 【主な技能】

言いくるめ50%、隠れる30%、カモフラージュ40%、信用50%、心理学30%、追跡30%、毒  
物10%、法律30%

### 【所持品】

アゾット剣(命中55%)、38口径リボルバー(命中20%)

デイヴ：アイルランド系移民出身デイヴィッド・ブランフォード。当然偽名だ。デイヴと呼  
んでくれ。――マフィアだ。

イーサン：表向きは何て名乗っているの？

デイヴ：交易商？ 小売商？ その辺で適当に。

チャーリー：（能力値を見て）すげー。完璧超人ですね。

レベッカ：神話生物に会う前に、我々が後ろから刺しそう。（笑）

デイヴ：恰幅がよくて、頭はいい。でもEDUは9。勉強はしていない。

- キーパー : 基本的な能力は高いけれど、不遇な状況であまり学校とか行けなかった？
- デイヴ : そんなん、このAPP使って学校なんか行かずに女引っかけまくっているに決まっているじゃん。
- レベッカ : またそっち系のキャラですか.....。

デイヴィッドの所持するアゾット剣は、チャーリーから借りているものです。  
アゾット剣は魔術用の短剣で、普通の剣より全然強いです。

### ■オタコン 記者 32歳／男性

【能力値】

HP 8 MP 16 SAN 80 幸運80 知識75 アイディア 80  
STR 9 DEX 13 INT 16 CON 10 APP 12 POW 16 SIZ 8

【主な技能】

言いくるめ80%、雄弁55%、討論25%、回避36%、隠れる50%、忍び歩き30%心理学30%、追跡30%、雄弁55%、図書館35%、目星85%

【所持品】 なし

オタコン : 僕、オタコン。

デイヴ : .....名前変えない？ せめて『オタコン』にするとか。

オタコン : 大丈夫、そのうち慣れる。メタルギアやった時も慣れたから。眼鏡かけたパソコンおたくがオタコンって名前だったから。(by『メタルギアソリッド』)

キーパー : オタク・コンピューターか。(注：ネタ元では『オタク・コンベンション』)

オタコン : 悪のジャーナリスト。

レベッカ : ジャーナリストとは名ばかり、実はゆすり屋。(笑)

デイヴ : チャーリーが拾ってきた情報でオタコンがゆすって分配とか。その逆とか。

キーパー : 何を黒いことを言っているんだー！

### ■イーサン・アークハート 外科医師 30歳／男性

【能力値】

HP 15 MP 13 SAN 75 幸運75 知識95 アイディア 70  
STR 14 DEX 9 INT 14 CON 9 APP 6 POW 15 SIZ 17

【主な技能】

応急手当70%、クトゥルフ神話15%、診断60%、心理学65%、精神分析65%、治療65%、ラテン語50%、ドイツ語50%、薬学10%

【呪文】

砂に住む者との接触、異形の神々の従者の召喚（黒の書より）

イーサン : 私はイーサン・アークハート。お医者さん。闇医者ということで。

デイヴ : 闇医者！？ 表向きは？

オタコン : いや、表向きも医者なんだけど、免許持っていない医者。(笑)

レベッカ : そっちの闇医者ですか！

チャーリー : で、失敗するたびに『医学はなんて無力なんだ！』と。(笑)

デイヴ : お得意さまはマフィアの怪我人。

イーサン : そうね。裏からこっそり入れて、治療してこっそり返す。

イーサンは、チャーリーの持つ魔術書『黒の書』から呪文を学習しています。  
内容はランダムで決定したため、砂漠でしか効果がないような呪文がありますが.....。

■レベッカ・シュルツ 探偵 29歳／女性

【能力値】

HP 12 MP 14 SAN 60 幸運50 知識60 アイディア 70  
STR 11 DEX 10 INT 14 CON 11 APP 7 POW 12 SIZ 17

【主な技能】

言いくるめ30%、回避35%、隠れる55%、クトゥルフ神話14%、忍び歩き45%、信用60%、フランス語10、法律35%、目星40%

【所持品】

32口径(命中70%)、ショットガン(命中80%)

【呪文】

グールの招来、萎縮（屍食教典儀より）し

レベッカ : レベッカです。レベッカ・シュルツ。

キーパー : 愛称はベッキーだな。

レベッカ : かつては記者でしたが、クトゥルフの——ええと、『世界の真実の一端』に触れて記者を辞め、より高次の真実を求めて探偵になりました。

キーパー : いやそれ、探偵としては何か間違えている。ケイオス・シーカーだ。

レベッカ : そして、呪文書を持っているチャーリーに近づいた。

チャーリー : でも近づいたチャーリーはゲイだった。（笑）

レベッカ : とんだ計算違いだったわけです。（笑）

レベッカは、チャーリーの持つ魔術書『屍食教典儀』から、『グールの召喚』を修得しました。

レベッカ : グールの粘ついた皮膚。暖かくて冷たい肉体。そしてほのかな芳香.....♪ 素晴らしい。これぞ私が求めていた真実一つ！

キーパー : .....いいかな？ 楽しそうなんだけど次にいこうね。出てきたらちゃんと表現してあげるから。（笑）

デイヴ : もうイかれているよ。

レベッカ : クトゥルフという珍しいシステムだから、頑張ってロールをしてみました。

イーサン : う・そ・だー！

.....というわけで、今回のセッションはこの5人が探索者です。

キャラ作成にかかった時間は小一時間ほど。全力疾走を追えた気分。

キーパー : なんかもう、終わった気がするんだが.....。（笑）

チャーリー : 『今日もいいセッションだった！ メシ食って帰るか！』って感じだね。

デイヴ : どうなっているんだ、今日は？（笑）



# OPENING

”クトゥルフの呼び声”用の7つの冒険『療養所の悪魔』中、“The Madman”  
ネタバレ注意報！ この先、オフィシャルシナリオのネタバレがあります。

背景世界は1925年。ちょうどH.P.ラヴクラフトの著作の年代です。

- キーパー : 君たちはニューヨークに住んでいます。今まで、2回ほどロクでもない事件に巻き込まれた知り合い同士です。
- レベッカ : 宇宙の真実に辿り着く機会があったんですね。またあの真実に触れたいわ。
- デイヴ : わかったってば。
- キーパー : 前回の探索行で君たちの仲間の一人、オカルティストのアダム・スミスという男が真の発狂に至り、半年前から療養生活を送っていました。その後復調した彼は、三ヶ月ほど前に近郊の町ブラック・ノブに家を買った、という話を聞いています。
- デイヴ : 名前が嫌だなー……。
- レベッカ : 快気祝いの一つでも持って遊びに行くべきなのかしらね。つき合いの程度にもよるけれど。
- キーパー : 元々本人から招待は受けていたんですが、ある日、アダムはニューヨークの君たちの元に来ます。――まず、アダム・スミスの外見から言っておこう。
- デイヴ : 目がギョロリとしてウロコが生えており……。
- チャーリー : 最近はエラが張ってきたとか。
- キーパー : いや。APP18、EDU20。イケメンで教養のある、線の細い優しいタイプの美男子。善人で親切で良識もある金持ち。
- イーサン : やーな奴。やーな奴！
- チャーリー : なんでそんな完璧超人が、俺みたいなチャーリーとつき合っているんですか。(笑)
- レベッカ : 良識のあるいい人しか、チャーリーとつき合ってくれないんじゃないの。
- デイヴ : じゃ、俺ら、すげえいい人？
- レベッカ : 私たちは慈悲深く、とても素晴らしい、いい人です。
- チャーリー : なんかさあ……いや、キャラをそう作ったのは俺だけど。何となくちょっと違うよねー……。 (笑)
- キーパー : アダムは深く傷つき、憔悴しきっています。「実は君たちの力を借りたいんだ」と。彼、ブラック・ノブでマーガレット・ブラウンという女性と恋に落ちてよろしくやっていたわけですけど、10日前くらいにマーガレットさんが発狂しちゃったんだって。
- チャーリー : 『破局』じゃなくて『発狂』ですか。(笑)
- デイヴ : 発音は似ているけど、微妙に違うー！
- チャーリー : 一瞬、『破局したんだね、ふうん』って思ったんですけどね。
- キーパー : マーガレットさんは、自分の家の庭でヒステリー状態になっているのを発見されたそうです。「あと……」と、かなり逡巡してから「どうも、手酷い拷問か何かを受けたらしいんだ」
- チャーリー : 拷問？ 誰にですか？
- デイヴ : それがわかったら解決します。(笑)
- チャーリー : それだー！
- キーパー : いわゆる、“嫁入り前の娘さんが受けるにはひどい系統のもの”も含まれているらしいがな。

イーサン : うわーっ。ちよっとーっ。  
レベッカ : ビデオを借りに行くとき売場が区切られているような系統ですか。(笑)  
デイヴ : お約束からいうと、今から行って撃ち殺した方がいいね。特に腹の辺りを重点的に。(笑)  
オタコン : 変なガキが生まれてきたりしたら大変だからね。  
デイヴ : その娘さんは今どこに?  
キーパー : ブラック・ノブ療養所っていうところにいる。「それ以外におかしい点は、この町では最近ペットや家畜が行方不明になっていること、人が2人消えていることだ」  
イーサン : どっちも女の人、とかっていわないよね?  
キーパー : いや、両方男。  
デイヴ : 「人が2人いなくなるくらい普通じゃねえの?」——注、ニューヨーク感覚。(笑)  
キーパー : 小さな村でネットワークが緊密なのに、情報がどこからも入ってこないことがおかしいらしい。  
イーサン : 地元民のうわさ話にもものぼらない。  
キーパー : 「これ以上、あの町で変な事が起きないかと配なんだ」——ここで〈心理学〉を持っている人間は振ってください。  
オタコン : (ころころ) 失敗ー。  
チャーリー : (ころころ) あ、04。  
キーパー : 彼は非常に真面目で、嘘を言っている様子でもない。

ちなみにこのシステム、d%判定が技能判定の基本です。  
目標値の1/5が効果的、01がクリティカルです。00はファンブル。

キーパー : 「手伝ってもらえないだろうか。当然、報酬は用意させてもらう」  
チャーリー : とりあえず、受けるでいいかな?  
キーパー : ——というわけで、ズバッとブラック・ノブ。(笑)  
チャーリー : 行った、着いた。



# SCENE 1

サクッと事件の舞台に移動～。

- キーパー : ブラック・ノブは人口2,500人のド田舎で、アダムは三ヶ月前にここに家を買いました。ちなみに「自宅の客室には2人ほどしか泊められないので、宿を手配するからそっちに泊まってもらえるかな」と。
- イーサン : りょうかーい。
- キーパー : さてと、家に向かって歩いている時に――〈目星〉ロールを。
- イーサン : (ころころ) 失敗。
- レベッカ : (ころころ) ある意味、幸運にも失敗。
- オタコン : (ころころ) 02。
- キーパー : じゃ、02で効果的な人。玄関脇から東に向かって、幅の広い何かを引きずったような跡がある。
- オタコン : とりあえずは放っておこう。……ふうん、そんなのがあるんだ。
- デイヴ : 教えてもらえれば、俺、〈追跡〉できるよ。
- オタコン : 大丈夫、〈追跡〉は自分でもできる。〈忍び歩き〉で〈追跡〉して、危なくなったら〈隠れ身〉できるジャーナリスト。この人何? って感じだけど。(笑)
- イーサン : ネタを追っているんだよ。
- キーパー : 玄関に入って右が客間で、そこに通される。豪勢ではないけど質はいい。
- デイヴ : 『(朗読調に)そこには緑色の、何でできているかわからない怪しげな像があり、触手が10本ほど伸びていた。興味を持って眺めていたオタコンの目には、それはぬめりと光ったように映った』
- レベッカ : 家の中は興味深げに眺めますが、もうじき新婚家庭になりそうな客間、って感じなんでしょうか。
- キーパー : そんな雰囲気はあるね。いわゆる、女性が選んであろう小物などがある。
- デイヴ : 『なりそこねた』の間違いでは。(笑)

今は昼過ぎ。

早速、ブラック・ノブやその周辺の調査を開始することに。

- キーパー : では、皆さんの1日目の行動宣言を聞くとしましょう。アダムは差し迫った仕事――執筆を頼まれているものがあって、「君たちにいつでも同行できるわけではないけど、可能な限り必要な時には居合わせるようにするから、声をかけてもらいたい」と。
- チャーリー : チャーリーは警察。
- オタコン : 地元の新聞社訪ねる。
- デイヴ : 町の中をうろつきまわって散策して、起こったことを全体的に把握する。
- イーサン : マーガレットさんの入院しているところに行く。
- レベッカ : ブラウン家に顔を出してから、町の中で聞き込み。ショットガンは持っていかないで、32口径だけにしておきます。(笑)
- チャーリー : 僕は警察官だから、当然持っているもんね。
- デイヴ : 俺は38口径を持っている。身だしなみだ。
- レベッカ : 私も身だしなみ。
- イーサン : それ、女の人的人身だしなみじゃないような?
- レベッカ : 真実から我が身を護るためよ。
- イーサン : (こめかみに銃を当てるジェスチャー) 真実ってコレ? コレ? (笑)
- レベッカ : そう、そして(イーサンに銃をつきつけるジェスチャー)あなたを護るため。(笑)

)

- デイヴ : さっきの、東に向かう引きずった跡のこと言ってくれるの？
- オタコン : 言うよ。――あ、まずアダムに聞こう。「何か外に引きずった跡あったんだけど、何か引きずったの？」
- キーパー : 「何の跡だろう？ 重い物を運んだ覚えはないんだが……」と。――居合わせている全員、〈心理学〉ロール振っていいですよ。
- チャーリー : (ころころ) 失敗。
- デイヴ : (ころころ) うーん、あんまり出目はよくないな。成功はしている。
- キーパー : 嘘はついていないようだと思う。
- デイヴ : これはマジっすね。
- オタコン : 「ちょっと気になるから、調べてみようか」
- レベッカ : 「私、見てみたいわ」って感じで。
- キーパー : 家の東にあった跡をしてみるけど、他の人から見れば、そう言われてみれば……という感じだね。
- デイヴ : 東って町？ 相対位置がわからない
- キーパー : 町は西。家の東には林があるけど、そっちに続いているね。
- デイヴ : 「あっちの林の中には何かあるのかい？」
- キーパー : 「いや。……ああ、インディアンの埋葬所があったような気がする」
- デイヴ : きたー！ このゲームでインディアンといたら邪教徒！
- オタコン : 放っておくと消える可能性もある。自分は新聞社に聞き込むだけのつもりだったし、そう時間はかからないかなって思うし。
- デイヴ : じゃ、俺も途中までつき合う。
- キーパー : 方針変更か。オタコンとデイヴィッドが林だね。

いざ、ドキドキの調査に出発。

処理の順番は、チャーリー→イーサン→レベッカ→オタコン&デイヴとなりました。

マスター曰く「順番には作為はありません――と言いたいところですが、気をつけましょう」

- キーパー : まずチャーリー。
- チャーリー : 警察来たよー。
- キーパー : 警察所というほど素敵なものはない。市役所にワンコーナー設けてあるよ。よぼよぼのじいさんがいる。
- チャーリー : 駐在所みたいなものかな？ よぼよぼのじいいのところにですね、窓の外にやたらとブヨブヨと太ったような巨漢が姿を現す。で、ガラガラっと扉を開けて、「(妙にかん高い声で) こ、こんにちはー！」(笑)
- キーパー : 「(悪役声で) これはこれは見ない方ですな、よその方ですか」
- チャーリー : 「僕――失礼、小官はニューヨークのナントカナントカから来ました、チャーリーと申します！ おつとめご苦労様であります！」
- キーパー : 「おお、これはこれは。ニューヨークの方ですか」
- チャーリー : 「実はこれこれこういうところでアダム・スミスさん。婚約者のマーガレット・ブラウンさんの気が狂われたという話でね……」と世間話をして、で……。
- デイヴ : それが世間話か。
- チャーリー : 世間話は重要ですよ！
- レベッカ : うん、でも世間話の内容が『マーガレットさんが気が狂った話』っていうのがちょっと。(笑)
- キーパー : とりあえず、〈信用〉か〈雄弁〉ロールを振ってもらおう。

チャーリー：〈信用〉45%。（ころころ）76、失敗。（笑）

結局、判定に失敗したチャーリーは、さほど有益な情報はもらえませんでした。

イーサン：私は紹介状を持って、マーガレットさんが入院している病院に行きます。

キーパー：ブラック・ノブ療養所の医師は、神経質そうな、細身で眼鏡をかけている人物です。『ドクター』とでも呼んでもらえれば。

イーサン：「ドクター、かくかくしかじかで、彼女の様子を伺いに来たのです。友人が憔悴しているので少しでも力になりたいくて。彼女に会えますかね」

キーパー：「それが相当に彼女の心労は深くてね。アダムさんですら、外から眺めてもらっているだけにしているんですよ」

イーサン：外からって病室の外から？

キーパー：いや、鉄格子の外。病室、鉄格子ついているから。

イーサン：じゃ、とりあえず、詳しい病状を聞こう。

キーパー：何か、得体の知れない恐怖に怯えているようだ。「正直なところ、一定の距離を保って診察するのがやっとな。男性には特にひどいね」

イーサン：うわーっ。

デイヴ：俺らが街から逃げるとしてもこいつだけは撃ち殺しておかなければ。

レベッカ：キーパーソンになる女性の腹は砕いておけって？（笑）

イーサン：「少しでも様子を見たいので、先生の横で見るのはダメでしょうか」

キーパー：じゃ、〈心理学〉ロールか〈討論〉ロールを行うように。

イーサン：（ころころ）うーん、失敗。

キーパー：「……やはり難しいので、今は遠慮してもらいましょうか」と。

イーサンも判定に失敗したため、めぼしい情報は見つからず。

マーガレット・ブラウンは、婚約者のアダムすら面会が難しいくらい、男性に怯えている様子でした。

一方レベッカは、そのマーガレットがいたブラウン家を訪問して聞き込み。

レベッカ：髪結わえて眼鏡つけてスーツに着替えて、信用の得られそうな格好をしてブラウン家を訪れます。APP低いから、服装でカバー。——「私、私立探偵でアダム氏の友人です。彼に頼まれて、今回の調査をしております」と。

キーパー：なるほど。ブラウン夫妻は会ってくれるよ。

レベッカ：きっちりと正面から行って、娘さんのことや、アダムさんのことも知りたいので。

キーパー：お父さんは「アダムさんには大変濟まないことをしました……」と。そしてお母さんはオイオイ泣いている。

レベッカ：それらが一段落するまでドライに待って、で、続きを促します。（笑）

イーサン：うわ、ひどいよー！

キーパー：ちゃんと話はできるよ。——アダムさんとマーガレットさんは、両親公認の正式にお付き合いしていたようです。

レベッカ：2人との出会いは、どういった……？

キーパー：チャリティの関係で顔を合わせて、それからつき合いがはじまったらしいよ。

レベッカ：……健全すぎて腹立つな。（笑）

デイヴ：APPの勝利って奴よ。

レベッカ：世の中には真の真実がある！ こんな真実は真実じゃないっ。みんなは皮に騙されているんだーっ。

デイヴ：それ、やっかみ。（笑）

レベッカ：みんなはうつろうものに目がたって、騙されているのよ。私はそんなモノにはこだ

わらない。真実のみ受け入れるの！

オタコン : 一番こだわっているじゃねーか。

チャーリー : なんかみんな今日はトばしているな。大丈夫か？

レベッカ : 単に、キャラ煮詰めているだけなんだけどな。……で、事件があった時の様子を詳しく聞きます。

キーパー : 要は、アダム宅に行ったまま帰ってこないの、使いを出して「娘行っていませんか？」「いえ、ずいぶん早く帰りましたよ」と。

レベッカ : その日、アダム家に行ったのは確定情報なのね。

キーパー : アダムの家から町までは5マイルくらいあって、いつも送ろうとか言っているのですが、断っていたようです。まあ、この辺りは物騒でも何でもないのでね。

レベッカ : みんな知り合いみたいなものですからね。

キーパー : で、警察も一緒に捜索したけれど見つからなかった。その晩、ブラウン家の庭で『バサバサッ』という奇妙な羽音がして、ヒステリーの金切り声が聞こえて、何だ今のは、と庭に出たら娘がいたと。(笑)

イーサン : うわーっ。うわーっ。

オタコン : それ重要だよ！

デイヴ : ビヤーキー、ビヤーキー！

適度に前フリが終わったところで(笑)、デイヴとオタコンの探索シーンに突入です。  
2人とも、運の蓄えは十分かな？

デイヴ : さて本編だ。遺書書いてから行くか。

キーパー : 最初でつまずけば何もないよ。――〈追跡〉ロール。

レベッカ : これは、失敗した方が幸運？

オタコン : (ころころ) 失敗した。

デイヴ : (ころころ) 1%差で成功してしまった。(笑)

キーパー : 車の轍の跡っぽいものが、林の中に続いている。

デイヴ : 車って四輪自動車ってことだね？ 林の中に車で入っていったら事故るぜ。

キーパー : 林にも道があるんだよ。長さ1マイルくらいの道が。

オタコン : どこで引き上げるかは考えるとして、とりあえず行ってみようか。

デイヴ : 「まだ追えるぞ」――うううっ、まだ追えるう。不幸かも。(泣)

キーパー : では、マーチングオーダーを決めてもらおうかな。(笑)

デイヴ : 道を追えているのは俺だけだもん。俺が前だろう。

キーパー : じゃ、林を歩いていく。さてと……〈聞き耳〉を振ってください。

イーサン : 見つけられたのかなー。バックアタッカー？

オタコン : (ころころ) 06で普通に成功。

イーサン : 命の危険が迫っているぞー！

デイヴ : (ころころ) 98というのはファンブルではなからうか！(笑)

キーパー : オタコンは効果的じゃないね？ じゃ、オタコンの〈聞き耳〉は、デイヴの立てた音で打ち消される。(笑)

デイヴ : いい感じだ。いい感じだ！

オタコン : ここで終わりかよー！

キーパー : 下を見ながら歩いて、ガキッ、バシヤとか音立ててる時。――オタコン。

チャーリー : さらばオタコン～。

キーパー : ササッ、という音と共に、(口を押さえるジェスチャー)「うっ」と。STR対抗ロールをやりましょう。

イーサン : うっ。インディアンだ、インディアン、インディアン！

オタコン : なんでSTRなんだ！ その前に避けたかったのにー！(ころころ)……ん、(爽や



かに) 94って何かな。(笑)

レベッカ : .....えーと、相手のSTRが5くらいだったら勝てるかな？

キーパー : デイヴ。ガサガサ、と後ろで音がした。

デイヴ : 振り向く。どうした？

キーパー : オタコンがない。(笑)

イーサン : 早い！ 早いよー！(笑)

デイヴ : 木を背にして辺りをうかがう。周りに気配がなさそうだったら、警戒しながら足跡を調べる。引きずった跡か何かあるはずだ。.....飛んで逃げてない限りなー！

イーサン : 頑張って足跡を残すんだ！

キーパー : では〈追跡〉ロール。

デイヴ : (ころころ) 42%差で失敗。

キーパー : .....というわけで、オタコンの生死はさておき。(笑)

レベッカ : 今晚、アダム家の庭でヒステリックな悲鳴が.....。(笑)

デイヴ : しばらく探して、ダメそうだったら急いで戻る。山狩りするしかねえだろう！

キーパー : 一旦戻った。

デイヴ : すぐさま館に取って返して、アダムに「かくかくしかじか、林を調べに行ったらこうなった。あそこの林は何なんだ？」と、ちょっと慌てぎみ。

キーパー : 「いや、わからん、調べよう。すぐ手配する」

デイヴ : .....と言っていると、警察署に電話がかかってくるんだね。

キーパー : 「はいこちらブラック・ノブ警察署。.....は？ また人が行方不明になった？」

チャーリー : 電話を聞きながら、お茶をズズズと啜っています。

キーパー : 「はいはい。お名前はオタコンさん」(笑)

チャーリー : 「えー！ ちょっとちょっと代わってくれ！ もしもし、僕チャーリーです。アダム、どうしたんだい！？」

キーパー : 「チャーリーか。今、かくかくしかじかということで、まるで何かすごく運が悪いような状況なんだ！」

チャーリー : 「な・なんだってー！ で、状況は？ わかりました、すぐ戻ります」と言って、「僕の友人が行方不明になったので、警察の全能力を上げて人捜しをやってください！ 山狩りです山狩り山狩り！」——というわけで、出がけに残ったお茶をズズズと飲んで。

イーサン : あくまで飲むんだ？

チャーリー : 飲む飲む、礼儀。

.....というわけで。

オタコンを捜索のため山狩りが行われることになりました。

今日のシナリオ、しょっぱなからトばすなあ。

キーパー : 山狩りですが、2人でセットになって、それぞれ間隔をおいて進むことになります。誰がどこに配置されるかを、【幸運】度で決めてみましょう。

レベッカ : (ころころ) ほどほどに幸運みたいです。

チャーリー : (ころころ) .....すいません、99振ったんですけど。

デイヴ : (ころころ) 責任取ってやるぜ。01だぜ！ 「インディアンのクソ野郎どもめ、だからあいつら信用ならねえんだ！」

キーパー : ぜ.....01。デイヴィッドのパートになります。——林の中。

デイヴ : 一人じゃないよね？

キーパー : いるよ。有象無象の村人が。

デイヴ : 有象無象でいいよ。

キーパー : はい、〈聞き耳〉ロール。

デイヴ : (ころころ) 99.....。(笑)  
キーパー : 大丈夫、幸運度はちゃんと差し引いてある。無辜の村人が1名死んだだけだ。ガブツ、「ぐあーっ」、ドサツ。.....という音に君が振り返ってみると.....。

デイヴ : もはやネタだろう、これは！(笑)  
キーパー : (説明文を読み上げる)『それは名も知れぬ巨大な魔物で、血走った目で辺りを睨み据え、がっちりとしたかぎ爪で、かつては人間であったがもはや名状し難くなったものを掴み、子供がアメを少しずつしゃぶるようにその頭を齧っている』

デイヴ : SANチェック。.....全然幸運じゃねえじゃねーかよ！(笑)  
キーパー : オタコンに会いたいと思って判定したんですから。会いたくないと念じながら【幸運】を振れば、会わずに済みました。(笑)

レベッカ : 何を念じてチェックするか、なのね。  
キーパー : あなたのハートにSANチェック。現在の正気度以下を振れば成功。  
デイヴ : (ころころ) 失敗。2%差。  
キーパー : d6振って。  
デイヴ : (ころころ) 5。(笑)  
キーパー : 一時的発狂の可能性あり。【アイディア】ロールに失敗すれば成功。失敗すれば成功。

レベッカ : 理解できちゃいけないんだよ。  
デイヴ : 80%もあるんだ。(ころころ) 75、成功。わかっちゃった。俺今、美しい目振っているよね。完璧だね。(笑)

オタコン : 絶対、今日は全部ネタだー！  
キーパー : (挿絵を見せつつ) こんなんが、ガリガリかぶりながら、「Grrrrr.....」  
デイヴ : 食屍鬼じゃん！

デイヴの一時的発狂ロールの結果は、『3時間の記憶喪失』でした。  
自己防衛のため、1日前後の、クトゥルフ神話関係の出来事を全て忘却。

キーパー : 記憶喪失になったデイヴは恐怖で逃げ出すか、恐怖を払うために立ち向かうか。  
デイヴ : それはロールで決まらないの？  
キーパー : ロールはしない。  
デイヴ : どっちかなあ.....。SAN値が5点も減っているから怖いよな。逃げるか。逃げれるものなら。

レベッカ : じゃ、闇雲に手を振り払いながら林の奥の方向へと。(笑)  
イーサン : だああっ、奥の方向はだめーっ！  
デイヴ : 後ろを振り向いたら喰ってた。怖かった。後ろを振り向いてまっすぐ逃げる。当然、走りやすい道があったらそっちに逃げます。

キーパー : ねえよ。  
デイヴ : 悲鳴上げながら逃げるんで、二次遭難がある可能性があります。よろしく。  
イーサン : 絶叫が聞こえるんだね。みんな集まっていくんだね。  
キーパー : じゃ、今度こそ真面目に【幸運】ロールだな。  
デイヴ : そんなに何度も何度も出るわけねえだろう！(ころころ) 72%、2差で失敗。  
キーパー : .....じゃ.....そういうわけで.....。(笑)  
イーサン : だあああっ。遭難者がー！  
キーパー : デイヴィッドの声はしばらくして途切れる。(笑)  
オタコン : 面白すぎるよー！(笑)  
キーパー : 話題騒然になりましたが薄暗くなってくるし、これ以上は.....ということで打ち切られます。

チャーリー : もう2人いねえし。



- キーパー : アダムも「何てことだ。オタコンに続きディヴィットまで！」村人たちも「この村は呪われているんじゃないだろうか？」と。「俺はもう入りたくねえよ！ マイクまでいなくなってしまったよ！」
- デイヴ : あ、そうか、さっき死んだ人だ。村人的には俺よりマイクだろう。
- キーパー : そうね。「マイクのところは、春に子供が産まれることになっていたのに。楽しみにしていたんだよー」(笑)
- チャーリー : 死亡フラグじゃねえか！
- デイヴ : 今更フラグ立てる必要ないから！(笑)
- レベッカ : 今まで行方不明になった人は、林の中でいなくなったとかはないんですか？
- キーパー : そんなことはないです。山狩りに集まっていた村人たちに聞けばわかりますが、行方不明者は庭師のスコット・スペードとシヴ・モンソンっていう浮浪者。いつの間にかいなくなっていた。
- デイヴ : 本当の神隠しって奴だね。『神話生物』が絡んでいるから。
- イーサン : うわーっ。本当に神隠しですね。
- レベッカ : とりあえず、引き返して対策を練りましょう。
- チャーリー : 昼に行くしかねえわな。林は危ないからな。……いや、パターンにハマってもいいんだけどね、みんなして。
- デイヴ : 『あいつらを見捨てるわけにはいかない！』……三次遭難。ギャー。(笑)
- チャーリー : 『チャーリー！ チャーリー！』……四次遭難。
- オタコン : そしていつの間にかダンジョン脱出シナリオに。(笑)

## SCENE 2

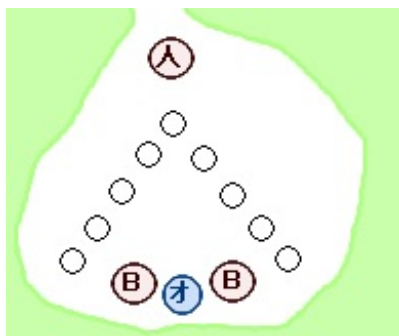
情報収集もロクに終わっていないまま、怒濤の展開に入ろうとしております。  
そして、一方その頃.....。

- キーパー : オタコン、君はあの後、ボコボコにされて気絶しました。殺すつもりじゃなかったみたいですね。耐久力は2点ほど減らしておいてください。
- デイヴ : うー、痛え。敵は何者？
- キーパー : あのグール。.....あ、姿、見ているな。SANチェックしてくれ。
- オタコン : (ころころ) 成功した。
- キーパー : じゃ、SANは減らない。君は薄れゆく意識のどこかでこんな会話を聞きます。聞き取りづらいですが、「これを今日の贅に使えませんか？」「この男か.....厄介な者を引き込んでくれたな」バキッ。「うわっ！ ですが、あそこの林に近づく者は.....！」
- オタコン : 声に聞き覚えは？
- デイヴ : 激しくありそうな.....。
- チャーリー : あの人ですね。
- キーパー : <聞き耳>と<心理学>振ってください。
- オタコン : (ころころ) どっちも成功一。
- キーパー : 口調は全く違うっぽい。君たちが期待している人は、どっちかというところとゆっくりとした優しいしゃべり方をしている。こっちはやや性急な、尊大なしゃべり方。声質は聞き取れなかった。
- デイヴ : わかんないよ。性格なんていくらでも作れるからね。
- キーパー : 「まあいい、動物もそろそろ飽いたからな。今夜まで生かしておくように」
- イーサン : あっ。今夜。まずい！ まずい！
- キーパー : で、再び意識が遠のきます。その後、ゴトツという音で目が覚めます。——(デイヴィッドに) はい、登場どうぞ。投げ出された衝撃で目が覚めますが、目の前には、君と同じように荒縄で縛られて床に転がされているオタコンが。
- イーサン : うわー。ぐるぐる巻き。
- オタコン : えーと、手が縛られているだけ？ アゾット剣は？
- キーパー : 2人とも手は縛られて、口に猿轡みたいなのをかまされている。武装解除されているよ。もちろんアゾット剣も。
- チャーリー : 取られたー！
- キーパー : .....というわけで、探していた人と会えました。
- デイヴ : こどこ？ 俺はなんでこんなところにいるんだ。今日は何。何も覚えていない。オタコン探しにきたことなんかすっかり忘れてる。
- キーパー : あ、3時間経って一時的な錯乱が終わると同時に、記憶喪失も解除される。既に夜のようにです。
- デイヴ : えーっ。『頭が痛い』やりたかったのにー。
- キーパー : さて、2人は猿轡はかまされているわけですが、テレパシー会話は可能。(笑)
- オタコン : 周り見る。ここ地下牢っぽい、それとも？
- キーパー : 丸太小屋っぽいね。壁には大きな鋏や、鋤の親戚みたいな物、庭師の仕事道具のよなものがたくさん置いてある。
- イーサン : 庭師？ 庭師ってことは行方不明になった人？
- オタコン : なんとか脱出しようよって目配せして.....鉄の道具みたいなものはあるわけね。じゃ、縄を解くために、シャクトリムシの如く這って行ってこすりつける。
- デイヴ : 俺も、しばらくしたらガクブルやめて同じように。「(もごもごと) オレタチクワレル・ニゲヨウゼ！」

オタコン : 「(もごもごと) ダッシュツシナケレバー！」  
キーパー : 今から5ラウンドの間に、判定なり成功なり何なりしてください。  
デイヴ : で、何をすればいいんですか。  
キーパー : 【幸運】ロールばかり使っているのも味気ないので、〈機械修理〉。行動が不自由なので、判定は1/2で行ってください。  
オタコン : 僕ないよ、〈機械修理〉！  
レベッカ : 2人とも技能割り振ってないから、20%しかない。半分で10%。  
デイヴ : 一人は「右、右～」って指示を出した方が、闇雲にやるよりいいんじゃない？ 一人が切れればいいんでしょう。  
キーパー : じゃ、1/2ではなく元通りにしましょう。  
オタコン : 2人でやるのと代わらないんだけど？  
デイヴ : どっちが振る？  
オタコン : じゃ、振る。(ころころ) たあっ。失敗。  
デイヴ : 交互にやる？ (ころころ) 27。あー、失敗。  
オタコン : 次、僕。やあっ。(ころころ) 全然失敗。  
デイヴ : (ころころ) 55。失敗。  
オタコン : (ころころ) はい、失敗。  
キーパー : .....さて。(笑)  
デイヴ : 出るわけねえじゃん！  
キーパー : ギイツと音がして、男が一人入ってくる。小男で出っ歯でAPPは1/3デイヴィッドっくらい。きよろきよろして落ち着かない。小男はギロギロと品定めをするように見て.....。  
オタコン : 転がっているフリをしよう。  
キーパー : とりあえず、『是非危ないところに行きたい』という人は、手を挙げてください。そうでないなら、お互いのPOW対抗ロールを.....。(笑)  
デイヴ : 1日目はオタコンだって言ったー！ .....どっちでもいいけど。  
オタコン : いいよ、別に。危ないところ行こうか、面白そうだから。  
キーパー : 力は相当強いらしくて、「こい！」ってズルズル引っ張っていく。  
レベッカ : その声は、昨日の会話の中で聞こえた声？  
キーパー : 口調はもう一人の方だね。(片目を示しつつ) こちら辺もアザになっている。  
デイヴ : 「(もごもごと) オタコーン！」  
オタコン : 「うーっ。うーっ。うーっ！」  
キーパー : 「うるせえ！」 ガーンッ。「お前のせいで旦那様に殴られたじゃねえか！」 ガン、ガン、ガン！ 手加減しているから、耐久力には2点。(笑)  
デイヴ : 出ていったのを見計らって、またロープ切ります。必死で。  
キーパー : 5回判定どうぞ。ただし今回アシストがないので、目標は10%で。  
デイヴ : (ころころx5回。失敗) さよーならー。(笑)

縄抜けに失敗したデイヴは放置で、時間は深夜に。

連れて行かれたオタコンはビヤーカーキーに掴まれ、天空高く舞い上がりました。



オタコン : 「うーっ、うーっ、うーっ！」——今、空？ 逃げられねえじゃねーか！

キーパー : オタコンはビヤーカーに掴まれて林のどこかの空き地っぽい所へ。そこには9つのコンクリートの固まりみたいのものが、V字型に並んでいる。

デイヴ : オベリスクみたいなの？

キーパー : そこまできれいじゃない。近くに来たのでわかりますが、本来白いであろうもののうち、七つが茶かけている。二つだけ白い。

イーサン : 赤いんだー！ うわーっ。

オタコン : 「……うーっ！ うーっ！ うーっ！」（笑）

デイヴ : 明日は我が身だ。まさに。

オタコン : 全身全霊で抵抗するよ。火事場のバカ力発揮したい。7,000万パワーくらいちょうだい。（笑）

キーパー : で、地面にごろっと下ろされる。

オタコン : じゃ、必殺技スーパーごろごろで転がってみよう。

キーパー : 何かにぶつかったと思ったら、もう一匹のビヤーカーだった。（笑）

オタコン : ハメだー！

チャーリー : どーすんだ、おい。

オタコン : どうやって逃げるんだ、この状況で。俺がマスターならここから脱出させる方法思いつかないんだけど。

キーパー : 普通なら即死ですが、最後のチャンスを与えましょう。運良く、ごろごろ転がった時に足の部分が緩んだのがわかる。

デイヴ : 逃ーげる。逃ーげる。

キーパー : (図Aを示しつつ) こんな感じ。周りは林です。前にいるのはローブを身にまとった人影で、暗くてよく見えません。ビヤーカーは彼の方を向き、服従のポーズを取ります。——どのタイミングで動くかを宣言してください。途中割り込みでいいから。

オタコン : ビヤーカーがこっちを見なくなった瞬間。

デイヴ : 脱兎の如く林の中に逃げる？

オタコン : うん。

キーパー : じゃ、幸運にも縄はほどけ、1ラウンド分は距離を稼げました。どの方向に逃げましょう？

チャーリー : バックダッシュで逃げるしかねえわの。

イーサン : 頑張って走ってくれ。

レベッカ : ……さて、オタコンの墓碑銘は何にしようかな。

チャーリー : 『我らが友オタコンここに眠る』でしょう。

レベッカ : 『死の寸前に真実を垣間見たことは、彼にいくらかの慰めを与えるだろう』

イーサン : ごめん、真実を知らない方が慰めになっているんだよ、この場合。

デイヴ : ごめん、俺見ちゃった。

イーサン : よかったねー。見えなくて。

キーパー : DEX対抗ロール。

オタコン : やーっ。（ころころ）24。

キーパー : ということは+5？

レベッカ : そうですね。18です。

キーパー : 高っ。ビヤーカー高いけど、さすがにそれはちょっと厳しいな。（ころころ）うん、君は火事場のクソ力ですごいダッシュを見せて、少し離れた。

デイヴ : 木の中に入ってしまうと、多少は逃げやすくなる。

レベッカ : 今こそ〈隠れ身〉をいかす時？（笑）

オタコン : できるだけ隠れるように、相手の視線から外れるように逃げる。隠れながら。隠れ

ながら！

イーサン : ジグザグジグザグ。

キーパー : では、〈隠れる〉をロールしてください。合わせてDEX対抗ロールをしましょう。

オタコン : (ころころ) 〈隠れる〉は成功。

その後のオタコンは〈隠れる〉を2連続成功させ、林の中にうまく潜むことには成功しました。

しかしDEX対抗判定に2連続失敗したため、ビャーキーはまだ近くを捜し回っています。

キーパー : ガッサガッサ。距離は縮められた。この距離になれば〈目星〉が使えますね。(ころころ) ガッサガッサ。

イーサン : 気づいていないー！ 止まってやりすごす？

デイヴ : どうするよ。

オタコン : うーん。近くにいる時は下手に動かねえ方がいいんだよな。近くには寄られたけど見つかっていないのは確信しているから、一旦待つ。

キーパー : 動かなければ〈隠れる〉は振らなくていいです。次ラウンド、相手は探しながら移動。——(ころころ) ガサガサ、と音が遠ざかっていく。

オタコン : 遠ざかったなら動くよ。

キーパー : どうぞ。

オタコン : 〈隠れる〉は(ころころ) 07、成功している。効果的に隠れながら、DEXが(ころころ) 26だから……どうなんだ？

キーパー : かなり離れた。

オタコン : 後は、隠れながらゆっくり脱出の方がいいだろう。

キーパー : いいでしょう。

レベッカ : ……さて、一人逃がしてしまった以上、キープしてあった2人目を連れてこなければ。(笑)

デイヴ : 俺かー！？

キーパー : 安心しろ、今日は大丈夫。そんな悠長なことしていたら間に合わないの。

イーサン : あー。特定の何かがあるらしいぞー。

オタコン : 5回連続で〈隠れる〉に成功するとは思わなかった。

キーパー : ぶっちゃけ話しちゃうと、1回でも失敗するとデッドエンド。

イーサン : バケモノだね。

そして時間は一気に飛び、逃げるができなかったデイヴィッドのパートへ。

キーパー : 明け方のデイヴィッドさん。

デイヴ : はーい。

キーパー : 「——お前の仲間が逃げやがったあああ！」 腹を蹴られた後、顔も殴られます。バキッ！ バキッ！ ドガッ！(笑)

デイヴ : 俺が悪いんかい！

キーパー : 手加減がありませんね。(ころころ) 3ポイントほどダメージをよろしく。

デイヴ : 俺が悪いんかー！？

キーパー : そしてほどけないくらいぐるぐる巻きに。

オタコン : だいじょうぶ。ぼくはなかまをみすてるようなことはしないよ。

キーパー : 棒読みだし。



## SCENE 3

- オタコン : 僕は戻っていいのかな？
- キーパー : はい。明け方には戻れます。
- オタコン : 自分がどこから逃げてきたかは、大体わかっているよね？ 飛んでいっている間、目隠しされていたわけじゃないし。
- キーパー : そうね。大まかにはわかっているよ。
- チャーリー : 「オタコン！ よく戻ってくれたオタコン！」
- オタコン : 「やばい。デイヴィッドがやばい」 (笑)
- チャーリー : 「な・なんだって————！」
- オタコン : 「事情はこれこれこうだ！ あそこの小屋に捕まっていて、あんなところに何かあって、血が染まっていて何かしているー」
- イーサン : 錯乱している。まあまあまあまあ。
- キーパー : アダムは「よかったよ本当に、オタコン！」と、感涙にむせんでいるよ。
- オタコン : .....アダムを疑う理由、あるかなあ？
- チャーリー : ないんだよね、今のところ。
- オタコン : プレイヤーとしては疑っているんだけど、キャラクターとしては疑うかなあ。
- キーパー : それはお任せします。
- オタコン : アダムの様子は細かく見る。こっちの発言に対してどういう反応をするか。
- キーパー : いいよ。見ている人は〈心理学〉ロールをしてください。補正はつけます。
- レベッカ : 仲間だから信用したいんだけど..... 〈心理学〉。(ころころ) 失敗。
- オタコン : (ころころ) +17で失敗。
- キーパー : 心の底から君とデイヴィッドを案じている気がするね。
- デイヴ : 夜になると乗っ取られるとか？
- オタコン : 引っかかるから、今後も観察を続ける。でも隠すのもおかしいから、起きていることは全部話す。
- キーパー : 〈クトゥルフ神話〉技能を持っている人、振っていいです。
- レベッカ : やったあ、ようやく役に立つ。(ころころ) 09で成功♪ ふふっ。私の真実を求め目は確かなのよ。
- イーサン : 役に立たなくていいよ。(ころころ) あ、68。こっちは失敗。
- キーパー : V字形の石は、“名状し難きもの”ハスターという神性を呼ぶために必要な触媒のようです。
- チャーリー : ハじゃねーか！

### 名状し難き者 ハスター

描写する者によって違った描写のなされるグレート・オールド・ワン。

恐ろしいほど長身で、不自然なほど痩せたローブ姿の証言が最も多い。

エントロピー原理の具現化とも、決定論の絆を持っているとも言われる。

「言いがたき誓約」を結んだ者を「ハスターの選ばれし者」に変えることができる。

デイヴ : だからビヤーキーか！

### ビヤーキー

故郷である星間宇宙の虚空中で創造された種族といわれている。

人型生物と他の生き物が不穏に混合した姿をしている。

ハスターはよくビヤーキーをメッセンジャーとして使うが

人間や非人間もさまざまな形でビヤーキーを召喚する。



キーパー : 9つの石を聖別することによって、触媒にできます。

イーサン : 触媒って、あの、血でぶしゅーって奴ですか。

キーパー : 4日に一度の割合でアルデバランが見える時刻、特定の星辰の下で聖別します。人間の血で行うのが最上級とされているけど、動物でも可。

オタコン : あ、間に合わなかったから、今回は別なものを使ったかもしれないんだ。

デイヴ : やばい。激しくやばい。

レベッカ : あのような、忌まわしい儀式を実行する輩がいるなんて。

デイヴ : “素晴らしい”の間違いなのでは？

レベッカ : その両者に違いがあると思っているなんて、短慮ね。

デイヴ : 入れ替わってやるよ！ そしたら全て見れるだろうよ、最期までなー！

チャーリー : 村人に言うと被害が増える可能性があるから、うちらだけで武装を整えていくしかないだろう。

オタコン : えー。村人扇動しようよ。僕、別に善人じゃないし。(笑)

チャーリー : そ・れ・だー！ ではですね、町の駐在のところに行ってかくかくしかじかということで、人間出してくれと。

オタコン : あ、自分も行く。一緒に行って、こんな小男にボコられた、という話をして。ポスの顔はみていないんだけど、そいつが悪さをしているんだ。

キーパー : 「なに、それは庭師のバナーか！ スコットの友達じゃねえか」

オタコン : ほーう。

イーサン : だから庭師っぽい場所だったのね。友達を売ったのか。

キーパー : <雄弁>か<言いくるめ>を振ってくれ。

オタコン : 責任持って俺がやろうか。(ころころ)<言いくるめ>、成功。(笑)

キーパー : はい。村人はご丁寧に松明や鍬とかを用意して「奴らのせいで家畜がー！」「バナーを吊るせエエ！」

デイヴ : 手がつけられなくなった。(笑)

キーパー : ーで、結論からいうと、丸太小屋はもぬけのから。痕跡があるかもしれないけど。

イーサン : もう手遅れですか。デイヴィッドは！？ デイヴィッドはー！？

オタコン : 遅かったかー。

キーパー : そして見つかりました、庭師のバナー。どこかの崖から肉の塊になって。

チャーリー : ビヤーキーが後ろから突き落としたりしたんじゃないの。

オタコン : 落とされて殺されたように見える？

キーパー : 村人たちの見解は、彼はきっと貧しさ耐えかねて家畜を売り、その罪の意識に耐えかねて自殺したんじゃないかなあ、と。

イーサン : 違うに決まっているだろう！

オタコン : .....っていうことは、村人の扇動はここでもうこれでもう終わり？(笑)

イーサン : ここまで？ ここまで？ ここまで？ うわーっ。

その後、みんなでオタコンの見た広場を目指したのだけれど、たどり着けませんでした。

キーパー : というわけで今日はもう、カア、カア。

オタコン : やばい、探せない。どうしようデイヴィッド。手がかりがなくなった。どうやって探そう。

デイヴ : どうにもならないような。

オタコン : ねえ。もうどうにもならないよね。

レベッカ : .....今更ですがこの村、図書館や昔の伝承が残っている場所ありますか？(笑)

デイヴ : 誰も調べなかったねー。

オタコン : 図書館行かなかったね。俺、出版社すら行ってない。(笑)

キーパー : 実は街の中、半分以上回っていないんです。  
レベッカ : デイヴのことは諦めて、原点に戻って調べて回りましょうか。  
デイヴ : (なげやりに) 頑張れ。  
レベッカ : 頑張るよ。期待しないで待っててね。  
デイヴ : 俺は、ビャーキーその3に生まれ変わって出てくるよ。(笑)

その晩。助け出せなかったデイヴィッドは今。

キーパー : デイヴは、袋か何かに入れられてどこかに移動。(笑)  
デイヴ : 北の某国への拉致は嫌だー!  
キーパー : ドサツと転がされてから、袋はさすがに取ってもらえるんだけど.....。  
イーサン : さあ、誰が見えるんだー?  
デイヴ : SANチェック?  
キーパー : そうだよ。目の前に、君は見たことのないビャーキーという方々がいらっしやいます。  
デイヴ : (ころころ) 成功。  
キーパー : SAN値を1ポイント減らしてください。麦藁と骨で作った巣みたいなものがある、民家の中っぽい。  
デイヴ : ビャーキーは巣に住むのか?  
キーパー : 南側の壁はフランス窓になっていますが、室中はがらんどろで荒れています。今は夜だと思いますが、カーテンがしっかり閉められています。扉が1つ。  
心休まることに、巣には丸まって仲良く眠るビャーキーが2匹。素敵なおいでがしています。つつうか何とかしてください。  
イーサン : うわーっ。心温まらねえよー!  
デイヴ : 嫌すぎる。喰われるー!  
キーパー : そういう、悪夢としか思えないという素敵な状況の中、今日の夜は更けていくのさ。問題は、ぐるぐる巻きになっているのでおトイレの問題があるんだが。  
チャーリー : 大丈夫、死なない死なない。  
レベッカ : 垂れ流し垂れ流し。  
デイヴ : 血、涙、反吐、鼻水全部出ている。  
キーパー : あまりにも劣悪な環境なんで、SANを自動的に1ポイント減らしておいてください。  
イーサン : うわーっ。  
デイヴ : だんだんバカになっていくよー。

## SCENE 4

翌日。探索者達はブラック・ノブの町に散り、改めて調査を行います。

チャーリー.....アダムを伴って町で聞き込み

・子供達からインディアンの埋葬所の場所を聞く。ただしそこには柱などはなく、塚のように盛り上がっているだけとのこと。

オタコン.....午前中は出版社、午後から図書館

・新聞社での聞き込みは特に収穫なし

・図書館で町の地図とアダムの昔の著作物入手。内容は『霊的な存在物が地球を侵略しようとしている』等だが、オカルト系でクトゥルフ絡みのものではない。

イーサン.....営林署

・林で活動するハンターを紹介してもらい、インディアンの埋葬所の場所を聞く。

レベッカ.....ブラック・ノブ療養所

・マーガレットと面会。目新しい事実は特になし。

インディアンの埋葬所の場所がはっきりしたこと、アダムはオカルト絡みの事に手を染めていることがわかったのですが、めぼしいものはそのくらい。

その日の夕方、探索者達はアダムの家に一旦戻ります。

**レベッカ** : アダムには、「今日はマーガレットさんに会えたけれど何も変わりはないわ」とは言います。

**キーパー** : 非常に落胆して、「僕も今日チャーリーと一緒に出ていく前に寄ってみたんだけど、相変わらずだよ」と痛ましそうに。

**デイヴ** : 〈心理学〉ロールしてもいい？(笑)

**キーパー** : どうぞ。振っていいよ。

**チャーリー** : (ころころ) ダメだー。

**イーサン** : (ころころ) 一応、成功はしたよ。

**キーパー** : 成功した人は、非常に心を痛めていることはわかる。

**イーサン** : あー、普通は心痛になるよね、うんうん。

**チャーリー** : でも世の中、二重人格ってのもいるからね.....。

**レベッカ** : アダムにストレートに聞いてみようか。「そういえば、あなた今、何を書いているの？」って。

**キーパー** : 「そうだね。今は筆が止まっているけれど、よかったら、こっちへ」と.....誰が行く？

**チャーリー** : 全員で。

**キーパー** : じゃ、そろそろと客間を出て真っ直ぐの、階段の向かいにある一番奥の部屋に。書斎のようですね。

**レベッカ** : .....描写が細かいと、背筋がウズウズしますね。(笑)

**キーパー** : マホガニー製のデスクの上に、書類や書きかけの原稿がある。「これだよ」と原稿を渡してくれる。タイトルは『アレクサンダー大王の性生活と真実』。

**デイヴ** : .....マジですか？

**レベッカ** : 「また、随分と今までと違うことをやっているのね.....」

**キーパー** : とうか、本当にシナリオに書いてあるんだよ。図書館にはオカルト系の本があって、で、『アレクサンダー大王の性生活と真実』だよ。こいつって何書いているんだ？

**イーサン** : わけわかんねえなあ。

**レベッカ** : マスターのテイストが入っているわけじゃないんですね、これには。

キーパー : 俺のテイストだったらもっと違うものが出てくる。こんな統一性のねえもの書かないよ。

デイヴ : 中を見てみたら、全然オカルトだったりして。

キーパー : 読んでいいよ。確かに、多少オカルト風味が入っているね。

レベッカ : これは歴史小説？ フィクション？

キーパー : オカルト風味がちょっと入っている。……それ以外はつつこまないでくれ、書いてないんだ。俺も何のために書いているのか聞いてみたい。(笑)

レベッカ : じゃ、部屋の中を観察したいです。本棚のラインナップとか。

キーパー : いいよ。オカルト系の本ってあまり置いてないね。必要な資料なんか置いてあるくらい。

デイヴ : オカルト系の本はない。しかしその本棚の隅には『ネクロノミコン』『屍食教典儀』をはじめとする、クトゥルフ神話系の本が……！

レベッカ : 「以前はオカルト関係を手がけていたわよね。今はもう、そういうことは調べていないの？」

キーパー : 「いや、相変わらずやっているけど」

レベッカ : 「でも、ここにはそんな資料は置いてないわよね」

キーパー : 「ああ、図書室にあるよ」

イーサン : あ、別に図書室もあるのか。

レベッカ : 「この家の中には図書室もあるの？」

キーパー : 「ああ、いいよ」と、図書室に案内してくれるよ。

レベッカ : じゃ、行ってみよう。

オタコン : 「アダム、君が気づいていないこの林に関する書物があるかもしれないから、調べさせてもらってもいいかな？」

キーパー : 彼は心地よく「そうだね。夜も長いから是非読んでくれ」と、何の屈託もない笑顔で。

デイヴ : ……なんでこのマスターが言うと怪しいんだろう。

チャーリー : 人徳だね。

イーサン : 徳なの？ 徳なの？

キーパー : ほら、僕はシナリオ通りにやっているんだから。……じゃ、〈図書館〉ロールをしてください。

レベッカ : 〈図書館〉ですか？ がーん。(ころころ) 5%失敗。

オタコン : (ころころ) 失敗。

イーサン : (ころころ) 失敗。

レベッカ : 3人とも失敗した。

キーパー : 君たちが期待するようなものは、置いてなかったです。

そんなこんなで突破口は見つからず、何もなすすべもないまま、時間は夜へ……。

オタコン : もうデイヴィッドは助けられない……。 (笑)

イーサン : やばいでしょう、そろそろやばいんでしょう、今日辺り。

デイヴ : 俺の死を無駄にしないために、以下略だね。実は、是非グールをやってみたい。

キーパー : デイヴィッド、このままだと最後まで出てこないか途中で死ぬかで暇だろうから、ちょっとこっちに来てくれ。

デイヴ : どこ行くの？

キーパー : いや、この先を相談しようかと。(と、別室に消える2人)

チャーリー : ……死亡フラグ立ったろっか。

レベッカ : どうせ行くなら、そっちにICレコーダーを持って行ってほしかったなあ。

と、マスター&デイヴの行った部屋から唐突に響くデイヴの笑い声。  
ふすま越しなので、意外とよく聞こえます。

チャーリー：あ、ゲラゲラ笑っているよ。むっかつくー！

レベッカ：あの2人をセットにするとロクなことないからねえ。

デイヴ：（戻ってきながら）じゃあ是非、最後の戦闘ではグールでよろしく。爪研いでお  
くわ。

キーパー：うん、よろしく。

チャーリー：あ、やっぱグールで出てきますか。

キーパー：本当にデイヴィッドが参加できなくなったら、俺と一緒にビヤーキーとグール使わ  
せてもらう。（笑）

イーサン：うわーっ。

手詰まり感が漂ってきた中、解決策を模索してあれこれ話し合う探索者達。

オタコン：子供から教えてもらった所に行くしかないかな。他に手段は残されていないし、時  
間もない。アダムが決定的に怪しいんだけどさあ、キーアイテムがないんだよなあ  
。

レベッカ：呪文書とか日記みたいな？

オタコン：そうそう。どこだろうね、それがわからないんだよねー。

レベッカ：アダムの家の地下室か、屋根裏でしょうね。

イーサン：アダムを外に連れ回して、忍び込む？

キーパー：じゃ、【アイディア】ロールでヒントくらいはあげましょう。さっきまで悩んでい  
るオタコンが思いつけば。

オタコン：【アイディア】ロール……（ころころ）00。（笑）

イーサン：きたーっ。（笑）

デイヴ：美味しいな。しかし死ぬのは俺だ！ ハスター様が見えるーっ。

オタコン：何かないかなあ。……俺、何を探そうとしていたんだろう？

デイヴ：テーマは？

オタコン：テーマ？ アダムを疑うに足るもの。

デイヴ：マスターのやり方が怪しいんであって、アダムは怪しくないんだよね、今のところ  
。

チャーリー：とにかく怪しいからいい。いい。

レベッカ：怪しいと思えるだけのフラグが立った気がしないのがネックだけど、もう話が進ま  
ないから……。

デイヴ：三ヶ月前に彼が来てから事件が起こったという意味での符合はある。解釈できるん  
だからメタではない。

レベッカ：う、うん。ではそう解釈した。

オタコン：アダムがいない時にアダムの家捜しをしたい。……何を探す、といわれると困るん  
だけど。

レベッカ：2人くらいなら泊められるって言ってたから、今晚はチャーリーとオタコンが泊め  
てもらって、彼が寝ているうちに家捜しを……。

キーパー：シチュエーション的には、チャーリーは泊まるには全く問題ない。「僕さあ、歩く  
の疲れたから休ませてもらっていいかなあ」「しょうがないなあ、チャーリーは相  
変わらずだなあ」

チャーリー：「俺、疲れているから休んでいっていいかなあ、アダム」

レベッカ：それをいうならオタコンもできますよ。「うっ、傷が痛い……ホテルに戻れない！  
」

デイヴ : 怪しいよそれはー！

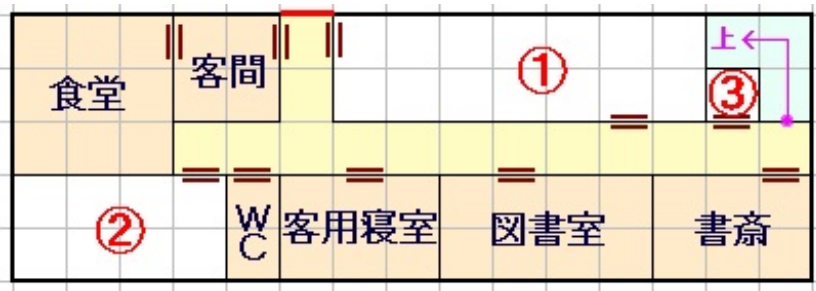
レベッカ : 大丈夫、アダムさんいいひとだからうたがったりはしないよー。

キーパー : 何故棒読みなんだ。

結局、オタコンとチャーリーは無事アダム宅に泊まる事になりました。  
レベッカとイーサンは宿に戻ります。



## SCENE 5



- キーパー : では、夜のパートにいきましょう。(図を見せながら) 今いるところは客用寝室。白いところは、何があるかわからない。
- イーサン : アダム部屋は2階なのかな？
- オタコン : 「昼間じゃ調べきれなかったから、もうちょっといいかな」って軽い気持ちで言ってみせて……図書室も調べるけど別なところも。
- キーパー : 彼は心地よく了承してくれるよ。
- オタコン : (チャーリーに) アダムを引きつけといて。ひたすら引きつけといてくれ。それしか俺には思いつかない。
- チャーリー : 僕はアダムを引きつけておくよ。
- キーパー : まあ、アダムはも気を紛らわしたいのもあるから、君の話には付き合ってくれる。「……つまり、君は美少年にエロスがあるといいたいのだね。なるほど、アレクサンダー大王も……」以下略。(笑)
- チャーリー : 「恥ずかしい話……とは言わないが。自分の性癖はよく知っているからね」
- デイヴ : 何の話をしているんだ！？ 犯罪者じゃないか！
- チャーリー : これでSMの要素が入ってきたら、犯罪以外の何者でもないですね。

探索開始から1時間。鍵のかけられた部屋は力押しでこじ開けて調べます。

1の部屋は居間、2は台所とワインセラー、3は物置で、特に怪しいものは見つからず。

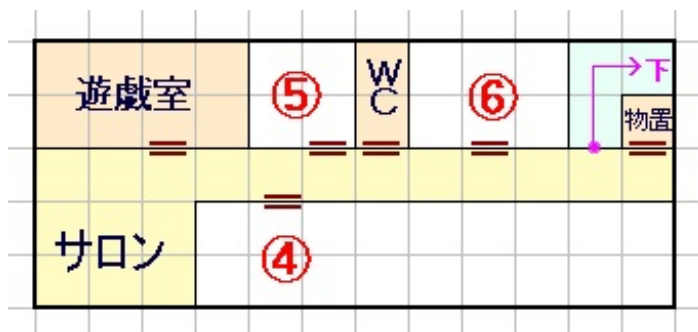
- キーパー : その頃のアダムは……(ころころ)「今、何か、変な物音がしなかったか？」
- チャーリー : 「(即答)全然しないよ！」(笑)
- イーサン : せめて誤魔化すとか！
- キーパー : 「そうかな、台所から音がした気がしたんだけど。鼠？ にしては音が大きかったような……」
- チャーリー : 「ごめん、実はオナラをしたんだ、僕」(笑)
- キーパー : 彼への〈言いくるめ〉をお願いします。(笑)
- チャーリー : 15以下！
- デイヴ : ダメか。
- オタコン : ダメだね。
- チャーリー : うりゃっ。(ころころ) 01！(笑)
- オタコン : すごいぞー！
- キーパー : アダムは「そうか」と、納得する。ちなみに〈聞き耳〉02はさすがに聞こえるよね。で、「さっきの、君の男に対する……」(笑)
- デイヴ : 興味津々じゃねーか！(笑)

と、アダムの話し相手をひたすらチャーリーがつとめているうちに、オタコンは1階をざっと探索終了。

しかし何もめぼしいものは見つかりません。ゲーム内時間は夜中の9時。

**オタコン** : もう、上に行くしかねえな。上行く。忍び歩きで行くよ。  
**キーパー** : ギッシギッシと..... 〈忍び歩き〉はしてください。  
**オタコン** : (ころころ) 〈忍び歩き〉には失敗している。  
**キーパー** : (ころころ) あ、大丈夫。「はっくしゅん! 何の話だったかな?」  
**イーサン** : ナイス。  
**レベッカ** : 君たち、2時間も何を話しこんでいるんだよ.....。  
**デイヴ** : 少年性愛に対する嗜好について。  
**キーパー** : 「今まで黙っていたが、僕はこういった趣味があつてね」、以下略とかいう話。  
**イーサン・レベッカ** : マーガレットさんどうするの!?  
**キーパー** : いや、『マーガレットさんみたいなのが好みで』という内容でいいんじゃないですか。  
**チャーリー** : よかった、『僕、実は両刀でね』とか言われたらどうしようかと。  
**キーパー** : 『僕は実は両刀でね。デイヴィッドのことは前々から狙っていたんだよ』  
**チャーリー** : 個人の恋愛については僕は否定しないよ。  
**デイヴ** : 否定してよー!

オタコンは2階を探索へ。鍵のかかっている扉は3つありました。



**キーパー** : 廊下の一番奥はフリーサロンで、いかにもお茶しそうな所。絵が6枚ある。  
**イーサン** : きっと変な絵なんだ!  
**キーパー** : 美術関係に該当するようなものはあるかなあ.....【知識】で振ってもらおうか。  
**オタコン** : (ころころ) 32と出たけど.....。  
**キーパー** : お、これはレンブラントの絵だな。  
**イーサン** : うわっ。高い絵もっているな、こいつ。  
**キーパー** : ドーミエ1枚、フェルメール2枚、あとはよくわからなかった。  
**デイヴ** : 名前をいわれてもよくわからない。  
**キーパー** : 俺もよく知らない。結構いいものが置いてあるなあ、と。  
**レベッカ** : (オタコンのPLを見遣りつつ) .....結局、この人が探索しているんだよねえ。なーんでだろ。(笑)  
**キーパー** : た、確かに。  
**レベッカ** : 今ふと、あれ、私が探偵だったような.....って。(笑)  
**オタコン** : 俺は何者なんだーっ! (←どんなキャラをやっても探索している人)  
**レベッカ** : 今回はジャーナリストだったよねえ。

鍵の開いている部屋はざっと検分しましたが、めぼしいものはありません。  
 ちなみに鍵開けは1回の判定に10分かかり、〈機械修理〉技能を使用します。  
 オタコンの〈機械修理〉技能は20%。び、微妙.....。

**オタコン** : 今10時。きっと限界だよね。もうとっくのとうに限界越えているよ。

デイヴ : チャーリーが普通でない話をしているから保っているんで。

レベッカ : 彼らは、時間を忘れて話しこんでいるのね.....。

キーパー : 宣言しておきましょう。あと2時間したら、「僕はそろそろ寝るから」って、2階に上がります。

レベッカ : どこか一部屋開けて、調べて終わりでしょうかね。

キーパー : まずは鍵をどうするか、ですね。「あーあ、そろそろ眠くなってきたなあ」と背伸びした彼のポケットには、チャリンチャリンと鍵が。

オタコン : 鍵開けできねえかなあ。1個だけチャレンジするか。(4の扉を指して)この一番広いところ。さっきも開いたから、開くだろ。

イーサン : ここは重要だ! ここを開けないとー!

オタコン : (ころころ)開いた、06!(笑)

全員 : おおーっ。

キーパー : ぴーんと開いた。きれいな部屋だね。アダムの寝室だろう。

レベッカ : 部屋の大きさは?

キーパー : 室内には絹のシーツの敷いてあるベッドと、本棚と、簡単なデスク。

レベッカ・オタコン : 本棚とデスクー!

キーパー : 丹念に調べるわけですね?

オタコン : 丹念に調べます。ここで全時間使っていいや。

キーパー : では、〈目星〉ロールを振ってみてください。

オタコン : 〈目星〉〜。08、成功。(笑)

デイヴ : すげー。

キーパー : 君は気づく。あれ、よく注意してみないと部屋の長さがちよつと足りないか。

レベッカ : やっぱりそれか!

チャーリー : 盛り上がってまいりました!

オタコン : あるよ、ここに何かある! クロ! やった、クロだあああつ。

キーパー : アダムはそろそろ顔上げて、「チャーリー、明日も早いから寝ようよ」

オタコン : まだだ!

チャーリー : 「そうかい? 僕はまだまだ話し足りないんだよ、アダム。もうちよつとだけ、いいだろう」

キーパー : 「そうか、じゃ、コーヒーでも淹れてくるとするか。僕は台所に行って来るよ」

チャーリー : 「じゃ、僕はちよつとトイレに.....」とトイレに出たふりをしてですね。彼はどんな感じ、って。

オタコン : いない。

キーパー : 台所から声がする。「おおい、お茶淹れるならオタコンも呼ぶか?」

チャーリー : 「そうだね、僕、呼んでくるよー!」と。

オタコン : その声は聞こえるだろう。声を聞いてテケテケテケって降りていって。

イーサン : 鍵、鍵、鍵! 鍵、鍵、鍵!

オタコン : 鍵かけられねえよ。無理でしょう。

チャーリー : 「コーヒー淹れてくれるってさー」

オタコン : 「いや、俺はいいや」で、コソコソと。――「隠し部屋あるぞ。これから調べるから、もうちよつと続けてくれ」(笑)

チャーリー : それは「わかったわかった、言っておくよ」って台所に行ってですね、「彼、熱が入ってきたみたいで、もうちよつと調べさせてくれ、だつてさ」

オタコン : 一応、図書室の中から声は出すよ。聞こえるように「俺、いいやー」って。

キーパー : チャーリーは〈心理学〉振ってくれ。

チャーリー : 15%しかないよ、そう出ない。(ころころ)22。惜しい。

キーパー : 「あ、そう? じゃ、2個でいいか。何かいる?」

チャーリー : 「僕はブラックのコーヒーでいいよ」

コーヒーに何か入っているんじゃないかという危惧もありましたが、幸い、コーヒーに衣服盛られてはいなかったようです。

無事にチャーリーはアダムと嗜好の偏った話に花を咲かせ、オタコンは搜索の続きへ。

キーパー : というわけで、オタコンは〈目星〉をもう1回だけ振ってくれ。

オタコン : いくらなんでも、そんなにいい目は出ないって。(ころころ) 成功。(笑)

キーパー : ——あれ、この本棚動くよ。

デイヴ : ほらきたー!

オタコン : 動かしてみよう!

キーパー : 奥に部屋がある。そこからちょっとカビくさいにおいが。棚とかに、怪しい小道具がちらっと見える。

デイヴ : 胡散臭えー!

チャーリー : きたなあ! いいなあ、いいなあ。

オタコン : 知識ないんだけど、何を調べればいいんだろう。

キーパー : 怪しいものっていうと、本棚には色々と……ええと、英語で書かれたものもあるかな。オカルト系の書物だな。

デイヴ : あるじゃねえか、こんなところによー!

キーパー : 〈オカルト〉ありますか?

オタコン : 5%しかないよ。(ころころ) それは無理だ。

キーパー : わかりました、ここまできた幸運に免じて次のロールは控えましょう。1冊の古ぼけた本がある。それは他に比べると大事にしています。……〈人類学〉ありますか?

オタコン : だからね、そんなものはないんだよー。

キーパー : 皮製の表紙がついている本だね。

イーサン : うわーっ!

チャーリー : 何の皮?

キーパー : 何だろうね? だから〈人類学〉振らせるんだけどねー。

イーサン : きゃーっ。うわーっ。うわーっ。

キーパー : ちなみに、何か文字が書いてある。〈ラテン語〉持ってる?

オタコン : ない。

イーサン : 〈ラテン語〉はここにあるよ。

キーパー : 何が書かれているかわからない。何か異様な……触っただけで怖気をふるうようなものっぽいんだが。

オタコン : もういい。どうしよう、もうアダム拘束でもいいと思うんだけど。

チャーリー : バレた時に拘束しましょう。

オタコン : この怪しげな本持って、脱兎の如く撤退したい。これをわかる人間に見せたい。時間ないよね。状況から考えて、今日じゅうにデイヴィッド助けないとまずい。

レベッカ : え、こないだの儀式から4日で解決すればOKって思っていたんだけど。儀式は4日毎に一度だと思っていたんだけど、違うの?

デイヴ : 4日以内って言ってなかった?

キーパー : ごめん、俺がちょっと誤解を招く言い方をしていた。4日毎だ。

オタコン : じゃ、後2日あるんだ。

レベッカ : だから、明日いっぱい調査日に宛ててもいいと思うんです。あと2日、デイヴには汚物まみれになってもらえればいい。(笑)

デイヴ : やーめーてー。オニー!

オタコン : でも俺、本、手に入れたんだけど……。

デイヴ : 今日はもう戻す。

レベッカ : そうそう。戻して、アダムを明日外に連れ出した上で、再度調べる。明日があればもっと調べられるよね。

イーサン : ラテン語、読めるよ。

オタコン : なら、戻すよ。できるだけ痕跡を残さないように元に戻す。

チャーリー : 『あれ、かけ忘れたかな?』で済ましてもらうしか。

デイヴ : 鍵、戻せないの?

キーパー : まあ、1回くらいしか余裕ないですな。

オタコン : やるだけやる。鍵閉めるわ。そうそう幸運は訪れないだろうけど……。 (ころころ) 惜しいなー。

イーサン : あと4%か!

キーパー : あ、4%だったら、かかったでいいよ。1回解いたものだから。

オタコン : やったあ! .....俺は何者だー!? (笑)

イーサン : 立派な盗賊でございます。

オタコン : じゃ、こっそり下に戻って図書室入って、図書室からわざとらしく開けて、「そろそろ寝ないか?」って。

キーパー : 「ああ、そうだね。ずいぶん長かったね。そんな面白いものあった?」

オタコン : 「面白いものというか、デイヴィッドを助けるために必死でさ。必要な本がないかと思って必死で読んでいたら、時間が経つのを忘れてしまったよ」

キーパー : .....というわけで、今日は何事もなく明けた。

キーパー : ここで幕間が入ります。——どこかの暗い、ビヤーカーと仲良くしている部屋。

デイヴ : 助けてー。

キーパー : ちなみにこれは意味はないから、何の関連づけもしないでください。——君が2日目、転がっている時。近くでゴソゴソ。人がキシッ、キシッと歩いている音。

デイヴ : いやーっ。たーすーけーてー。

キーパー : 君の目の前の扉がギシ、ギシッと鳴り、ノブが回される音がする。それはやがて止んで、足音は立ち去っていく。

レベッカ : ん?

デイヴ : グールが俺を喰おうとしている? ひーっ。

チャーリー : あ、そうか、2種類いるもんね。敵の敵は味方.....ではなかった?

デイヴ : 今日は助かりそう?

キーパー : うん、今日は助かりそう。SANを1ポイント減らしてくれるだけでいい。——以上、幕間終わり。



## SCENE 6

そして、運命の日がはじまります。

.....誰にとっての運命の日かは、諸説あるところですが。

チャーリー : 鍵開けと、本調べる人間と、だね。僕はアダムがいない状態で、子供とかに話を聞きたいんです。けど、アダムを家から離さなきゃいけないんですね。

レベッカ : 私が、一緒にマーガレットの面会に行くっていう理由で、アダムを館から引き離そうか。

チャーリー : じゃ、その間に俺が、子供やおばちゃん相手に話を聞く。

オタコン : 自分は鍵開け担当で、読んでもらうと。

イーサン : 昨日の本読みます。

デイヴ : 俺もやることもあるよ。――ビヤーキー見張っている。(笑)

チャーリー : 重要だ。

レベッカ : 見一て一る一だ一け一。

オタコン : あまりは時間かけたくない。それらのことを午前中に終わらせて――ここで何が見つかるかにもよるんだけど――とっとと午後には別な行動を起こしたい。

キーパー : 順番にいきましょう。

デイヴ : は一い。ビヤーキー見張ってま一す。(笑)

キーパー : デイヴィッドはビヤーキーを見張った。この頃には耐久力も減ってしまうので、d3減らしておいてください。

イーサン : うわ。d3か。

デイヴ : 俺が振っていいの？(ころころ)低い目を出すのは得意さ！

デイヴの見張り任務は終了。(笑) チャーリーの調査には特に収穫はありませんでした。

レベッカは、アダムを連れてマーガレットと面会后、ブラウン宅で調査.....という名目で、アダムを半日引き回しています。

レベッカ : そして本命へ。

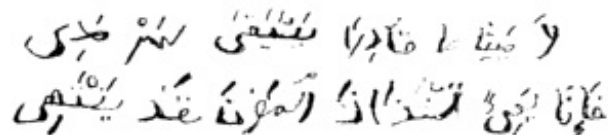
キーパー : というわけで昨日の部屋。勝手知ったる他人の部屋を勝手に開けた。

イーサン : ラテン語、読みましょう。

キーパー : これは.....『妖蛆の秘密』？

デイヴ : 魔術書だよー！

キーパー : (紙片を渡しながら) そして、こんなメモが『妖蛆の秘密』に挟まっています。



لَا تُفِيضُ مَا قَدَرْنَا بِطَبَقِي لِمَنْ حَرِي  
عَلَانَا بِحَسْبِ تَسَدَادِ أَمَلُونَ قَدْ يَسْتَهِي

イーサン : (紙片を見て) 何ですか、読めないんですけど。何文字？

デイヴ : アラビア語だよ。

オタコン : こんなもの読めないよ。

キーパー : いや、大丈夫。裏にちゃんと英語で書いてある。

That is not dead which can eternal lie



And with strange aeons even death may die.

(そは永久に横たわる死者にあらねど  
測り知れざる永劫のもとに死を超ゆるもの)

- デイヴ : .....確定黒だな。
- イーサン : うっ。うっ。うっ。これってクトゥルフ神話かなんかに出てくる用語じゃー？
- レベッカ : ネクロノミコンの有名な一節ですね。クトゥルフ神のシンボルになるフレーズみたいなもの、くらいに思っているんじゃないかな。
- イーサン : なるほどね。それくらいなら知っているかなあ。〈クトゥルフ神話〉15%あるから知っていていいのかなあ。
- キーパー : そうですね。メジャーな話ですから。
- イーサン : これ、中読まないでダメだよ。50%で読めるよ。
- キーパー : 読みます？ 〈ラテン語〉振ってください。
- イーサン : じゃ、〈ラテン語〉振るぞー。(ころころ) 23、成功。
- キーパー : 数時間をかけることによって、何か特定のものを探すことはできます。時間的には、ギリギリってところかな。
- レベッカ : 『今回の事件に関する手がかりめいたものを探す』っていう指定でもOKですか？
- キーパー : OKだよ。60%以内である程度探すことができます。
- イーサン : (ころころ) はっ。01！(笑)
- レベッカ : うわ。今日はみんなどうなっているのー！？
- デイヴ : いや、ある意味ファンブルだよ。
- キーパー : SAN値を減少します。マイナス2d6してください。(笑)
- イーサン : あああ、やっぱりきたか。
- レベッカ : いえ、これは必要な痛みです。
- イーサン : やーべえなあ。(ころころ) 7。
- キーパー : まあ、それより更に下がるんで、4点減らしてください。『ハスターの招来』について詳しい記載のある部分を見つけます。  
4日に一度、アルデバランが特定の位置にさしかかった時にV字型の石を1個ずつ聖別することで儀式が行えます。ビヤーキー一人につき、10%ずつ成功率が上がります。
- デイヴ : 一人じゃねえ、一体だ。こいつはヒトじゃねえ！
- イーサン : わかったわかった。
- デイヴ : (コワレ中) 俺はヒトなのかー。だんだんわからなくなってきたー。ふふーっ♪...  
...助けてえ。
- イーサン : 儀式の時間は分からないんだね。
- キーパー : 明け方の手前。今日は3日目で、4日目になるのは明日の朝。
- オタコン : やっぱりそうだ、時間が重要だ。
- デイヴ : がんばれー。俺を助けろ。たーすーけーろー。ろろろろろろ。
- オタコン : 防ぐ方法なんてのは、書いてないよね？
- キーパー : 『ハスターに対応するにはクトゥルフの力を以てするしかないだろう。大いなるルイエの主を喚ぶことができれば』
- イーサン : 喚べんわー！
- デイヴ : 聖別した石を汚す方法はない？
- キーパー : 『ぶっ壊せ』って書いてある。(笑)
- イーサン : ダイナマイトかー！
- デイヴ : コンクリートだろう。壊せばいいなら、ハンマーとかでいいんじゃない？
- イーサン : うん。1個でも壊せばいいんじゃないの。

イーサンが魔導書を読んでいるとき、オタコンは別行動を開始します。

オタコン : あのさ、イーサンが本調べている間、自分はすることないから、他のまだ行ってない部屋開けていい？

と、オタコンは、5の部屋の鍵開けにトライ。  
+10%の補正をもらって成功率は30%なのですが、5回挑んでも開きません。

オタコン : 50分経ったね。まだ2時間あるけど.....。

チャーリー : もう1回やってダメだったら、次の部屋行きます？

オタコン : うん。(ころころ)開かない。1時間かけても開かない。

チャーリー : さっきがすごすぎた。

オタコン : (6の部屋を指して) こっちに行ってみよう。

イーサン : 気分を変えてもう一度。

オタコン : (ころころ)開かない。(ころころ)開かない。やばい、緊張感がないから失敗するのかもしれない。(ころころ)開かない。(ころころ)開かない。(ころころ)+17。

キーパー : おかしいな、30%のはずなんだが。さっきの出目はどうしたんですか。

オタコン : 出ないって、普通。(ころころ)ギリギリくらいで開いた。

キーパー : 開けると寝室があるね。きれいな絹のシーツがかけられている。

レベッカ : マーガレット用の寝室かな？

キーパー : いや、私物はあまり置いてない。

オタコン : ということは、調べてもしょうがない。ぱっと見は何もないね？

キーパー : ぱっと見は何もない。

オタコン : どうしようかね。多分、調べたら終わり。時間がないねえ。もう一つの扉の鍵開け、更にチャレンジするか、それともこの部屋を探索するか。やばい。昼にしなけりゃよかった。

キーパー : 残り約1時間ということで。

オタコン : .....もう一つの部屋、行くか。いきます！(ころころ)開かない。

キーパー : はい、10分経った。

オタコン : 開く！絶対開く！俺は大丈夫！(ころころ)——20。出た！(笑)

キーパー : じゃ、インターリユード・イン。

デイヴ : わ——っ。ああ、見える、見えてしまう、ああ——。

チャーリー : あ。そっちか！！

キーパー : 彼は再び暗いところにいた。いや、今は昼だから明るいだらう。そしてさっきから、扉がガチャガチャと.....。(笑)

イーサン : うわああああつ。ここか！やべーなああ！

オタコン : ——俺か！？ごめん、扉開けない！(笑)

キーパー : やだなあ、何言っているんですかー。

デイヴ : やだなあ、何言っているんですかー。

イーサン : ダメ！あれえ！？うわああああああつ。(笑)

キーパー : 幕間ですから。気にしないでいいですよー。(←白々しい)

デイヴ : 幕間ですよ幕間ー。

オタコン : あれ！？あれー？僕鍵なんて開けてないよー！

キーパー : 臨戦態勢を取っていた2匹のうち1匹が動く。一旦去った足音は、1時間ほどしてから再び戻ってきた。そして鍵かガチャガチャと.....。

デイヴ : 今日はしつこいよー！

キーパー : ——そして、ピン、と鍵の開いた音がする。

オタコン : .....あの一.....。.....危険感知とか、ないかな？（笑）

キーパー : 〈聞き耳〉と幸運ロール、両方振ってみて下さい。

オタコン : (ころころ) あかね、〈聞き耳〉成功したんだけど、.....いいかな？

キーパー : 【幸運】は？

オタコン : あ、【幸運】ね。(ころころ) 99。——いや、これは.....。.....しようがないね。  
(笑)

デイヴ : 聞いたかったものを聞こうとした【幸運】ロールに99だから、聞こえなかった。

イーサン : ご対面～。

オタコン : わからないもんね。開けるよね、もちろん。当たり前だよ。

デイヴ : ついに鍵が開いたー！

キーパー : 開けた途端に饅えたような妙な臭いがして.....はい、SANチェック。(笑)

イーサン : やべーよ！

デイヴ : ビヤーキーはさっき見たけど。

キーパー : 見慣れるまでは何回も判定します。それに、少なくとも扉を開けた途端にビヤーキーが2匹いたり、イモムシみたいなデイヴィッドが転がっている光景は、ちょっと見られるもんじゃない。

レベッカ : .....じゃ、この扉が開かなかったのは、啓示か何かだったのでしょうか。(笑)

キーパー : 俺は心の中で大笑いしていた。この人の危険感知能力は妙に高い。(笑)

オタコン : サイコロの目に従っていけばよかったんだ。

デイヴ : 昨日、夜中に2階調べるって言った時から、あ、きたきたきた.....って思った。

オタコン : いや、あかね。それはわかっていたんだけど.....そうか、ビヤーキーも一緒にいるんだっけ。失念していたの、俺が。

キーパー : 慰めにならない慰めとして、ビヤーキーはデカイから、2匹同時にはかかってきませんから。

オタコン : 扉開けて嫌な臭いがしたら、ぱっと閉めたいんだけど.....。(笑)

デイヴ : 助けて～。

キーパー : DEX対抗ロールで勝てば、扉を閉めようと試みることができます。(笑)

レベッカ : それって閉めるべきなの、開けておくべきなの！？

デイヴ : 閉めるなー！

オタコン : (ころころ) う、87。DEX 5。さよならー。

キーパー : (ころころ) 73だから、9。9対5。こっちの方が早い。かぎ爪の攻撃いきましよう。横殴りに薙ぎ払われる。——今の耐久力いくつ？

オタコン : 今、8。

レベッカ : 微妙な数字ですね。2d6だったら突き抜けちゃいそう。

キーパー : かぎ爪2回、(ころころ) 攻撃成功。〈回避〉は認めましょう。

オタコン : 36%しかないんだよ。(ころころ) ダメ。さよなら。ばいばーい。確実に死ぬるね。

キーパー : (ころころ) ピンピン。2点。

デイヴ : なんだ、弱いじゃん。

キーパー : 2撃目。(ころころ) 当たる。

オタコン : うわーっ。(ころころ) 3足りない。

キーパー : (ころころ) えーと、2・3で5。

オタコン : 今、耐久力1点。(笑)

デイヴ : 逃げよう。

イーサン : うん、とにかく逃げよう。叫んで。叫んで逃げて。

キーパー : というわけで、イーサンが本を読んでいると、ドスン、がたん、バタン。

オタコン : 「びゃあー——っ」

耐久力8で、2d6の攻撃を2回受けて尚生きている男、オタコン。  
そして、再びオタコンとビヤーカーの追いかっかがアダム邸で開始されます。  
イーサンは廊下には出ず、隠し部屋の中で逃亡用ロープを作りながら待機。

- オタコン : DEX対決..... (ころころ) 01。クリティカル。  
デイヴ : 73。.....林に無事逃げることができます。一定以上のところからビヤーカーは襲ってこないで、戻った。  
イーサン : 戻ってくる音聞こえるのかな。バサバサと。  
キーパー : ええ、聞こえます。  
デイヴ : あう。あう。あう。こっちはやばいー。  
オタコン : 俺はいつも、危険なことを巻き起こしてから逃げているの？ (笑)  
キーパー : 出目よすぎ。俺今回、手加減していないんですよ。  
デイヴ : ビヤーカーに2度追いかけて生きている人間は初めて見た。  
オタコン : 多分ね、イーサンは動かない方がいいと思う。  
デイヴ : 隠し扉を閉めた方がいいんじゃないかな？  
イーサン : 隠し扉そーっと閉めて、しーんとします。  
キーパー : それだったら特に何も起きない。デイヴィッドの部屋には、外に出て行ったビヤーカーが、かぎ爪から血をしたたらせながら帰ってくる。  
イーサン : うっ。  
  
オタコン : .....あれ、ちょっと待てよ？ デイヴがここにいるってことは、剣とかもどっかにあるってことだね。  
キーパー : アゾット剣？ ああ、さっきの隠し部屋に転がっているよ。その存在をすっかり忘れていた。  
チャーリー : その剣が、最初の夜中に忍び込んだ時にあったら.....。  
オタコン : 『え？』 って思うよね。  
デイヴ : その時は暗くて見つけれなかったんだよ！  
キーパー : ごめん、忘れていた。お詫びに、どのロールでも1回だけ成功する権利をあげましょう。(笑)  
チャーリー : いや、まあ.....ありがとね。これはアダム撃つ時に使う。(笑)

## SCENE 7

事態は風雲急を告げる中、出かけていたチャーリーが戻ってきます。  
タイミングは、ちょうどビヤーカーがバサバサと家の中に入っていく頃。

- キーパー : 扉は開いていますね。  
チャーリー : 帰ってきて、「フフフン♪ あれ、なんでドアが開いているんだろう？」  
デイヴ : 可哀相、何も知らないで……。 (笑)  
オタコン : 僕は？  
キーパー : あなたは林の中。  
オタコン : 待て待て待て、ちょっと待て！ まあ待て、まあ待て、まあ待て。 (笑)  
デイヴ : ほぼ同時だったって、完全に同時じゃないだろ。  
キーパー : 10分くらいの余裕はあるよ。  
オタコン : あ、じゃ、チャーリー来たら呼ぶよ。当たるように石投げる。 (笑)  
チャーリー : じゃ、チャーリーが車運転して帰ってきて、後ろから石ドカンと投げられて、「俺のエレガントな車を壊しやがったな、誰だよ!？」って思ったら、オタコンが血イダラダラ出しながら……。 (笑)  
オタコン : うん。出てくる。  
チャーリー : で、「ど、どうしたのどうしたの!？」「かくかくしかじかでビヤーカーがね」「何ソレ？」って話になって、とにかくアダムはクロだと。で、話を聞いて、リポルバーを手に渋い声で「ままならねえもんですねえ……」  
デイヴ : でもオタコンが表に出ていくと、何があったかわかっちゃうから。  
イーサン : また林に隠れている。  
  
デイヴ : やっぱりさ、アダムが帰ってきた瞬間に撃ち殺すってどうだ？  
イーサン : それ、いいかもしんねえなー。  
デイヴ : ビヤーカーはそれで帰ってくれないかなあ、と一縷の望みを賭けて。  
イーサン : あー、従属させている奴が死ねば。  
デイヴ : チャーリーが、『やあアダム。すごい発見をしたんだ、見てくれ!』ドン! (笑)  
オタコン : (真顔で) いや……冗談抜きでやろう。チャーリーがアダムを拘束したところで問い詰めて、反応見てから銃を抜く。  
チャーリー : 当然、撃鉄は落としている。  
デイヴ : 見えないところで拘束して、林の中に引きずり込んでドン。でないとビヤーカーに気づかれる。  
チャーリー : 家の前のちょっと遠いところで俺が待ってて、車で帰ってくるだろうから止まれ止まれって止めて……。

ここでシーンは、アダムと一緒に行動していたレベッカの元に飛びます。  
アダムの運転する車でちょうど帰ってくるころ。

- キーパー : 窓にコツンと石が当たる。アダムが突然、キキーッと車を停める。  
レベッカ : いきなり？  
キーパー : 〈心理学〉振っていいよ。  
イーサン : うわっ、やべーよ!  
レベッカ : (ころころ) 6%失敗です。  
キーパー : じゃ、アダムは「何でしょうね?」って窓を開ける。見ると……はい、SANチェック。  
イーサン : ビヤーカー子ちゃん!?



デイヴ : ビヤー子じゃないよ。

チャーリー : そ、そうするとグールちゃん？

レベッカ : (ころころ) 成功。

キーパー : じゃ、SAN値は減らない。グールなんだけどさ.....〈クトゥルフ神話〉技能振っていいよ。

レベッカ : (ころころ) それは失敗。

キーパー : あなたは、何かわからないものを見た。アダムが、アダムとは思えないような表情になります。アナキンが暗黒面に堕ちるような感じで。(by『スターウォーズ』)

レベッカ : うわーっ。

チャーリー : ぱーぱぱぱーぱぱぱーぱぱはー♪ (←ダースベーターのテーマ)

キーパー : 「(悪役ちっくに) そうか、奴は知ったか.....」

レベッカ : えと、後ろ手にドアを開けて逃げます！

キーパー : ドア開けて、パン(銃を撃つ仕草)。

イーサン : うわあ、逃げれないよー！

キーパー : 当たらない可能性もあるから(ころころ).....貫通か。しょうがないか。耐久力いくつ？

レベッカ : 14ですけど.....。

キーパー : (ころころ) 6点のダメージがいきます。

イーサン : うっわーっ！

オタコン : イニシアチブはないね？

キーパー : レベッカは〈心理学〉に失敗していますから、完全不意打ちです。

デイヴ : さっきの『どの判定でも成功できる』なら、今の拳銃は回避できる？

オタコン : 無理。回避ルールがない。(笑)

デイヴ : 無理か。あうー。

レベッカ : 車のドアは開けられたんでしょうか。「きやああっ」と、声を上げながら転がり出たい。

キーパー : 転がり出て倒れた君を見て、ゴツツと頭を一発蹴る。「いけないなあ。君たちは客人なのに、勝手に主人のいぬ間に荒らしてくれたそうだね」、ガスッ。ニイツと笑う彼は、明らかに狂気が目だよ。

レベッカ : うわっ、先に行き着くところまで行かれてしまったっ。「荒らされて困るようなモノを持っているからよーっ！」

デイヴ : 何だかわからないけどね。(笑)

レベッカ : 事態がよくわからないけど、何か言い返しておかないと気が済まない。

キーパー : 髪の毛をぐいっと掴んで、ズリズリと引きずっていく。

オタコン : これ、どこら辺？

キーパー : あなた達の所からちょっと離れた、見えないところ。

オタコン : でも、銃声はしたよね。

キーパー : 銃声はしました。ただしこのラウンド中に駆けつけるのは不可能です。  
「残念だよ。アダムの大事な君たちは——1人くらいはまあしょうがないとして——帰してあげるつもりだったんだがなあ」

イーサン : 乗っ取られているのかー！？

レベッカ : 私、手元には銃あるんですよ。隙見て撃ち返したいんだけどな。

デイヴ : ショットガン、そんなに簡単に出せないだろ。

レベッカ : いえ、32口径も持ってます。

キーパー : ああ、そもそも武装解除するよ。こいつの性格だからな.....一発蹴り入れてから、右手パン。

レベッカ : み、右手パン！？

イーサン : うわーっ。

キーパー : 〈回避〉していいですよ。ただし足の激痛+不意打ち系でDEXの補正には-3がかかります。ちなみにそれで幾つ？

レベッカ : 元値が10で、3引いたら7。

デイヴ : ということは、〈回避〉するより先に手にパンがくる。

キーパー : 当たるかどうかは判定しましょう。(ころころ)大丈夫、たったの3点さっ。

レベッカ : うにゃーっ！ 利き腕って.....指定がなければ右でしょう、ね。

イーサン : 容赦ねえなあ。

キーパー : ちなみにこの銃って、3回撃てるんだよね。大人しくしないと後2回くらいは打ち込む。

レベッカ : 死ぬ。死ぬ。ごめん。——大人しくする。大人しくします。「私だって命は惜しいわよう」

キーパー : 「ああ、いい子だいい子だ」というわけで、残念ながらドナドナ状態でインターリユード・アウト。

イーサン : ドナドナドーナ、ドーナ♪

というわけで、何が何だかわからないうちにアダムに捕獲されてしまったレベッカ。ちなみに、レベッカのシーンをしている時、背後ではコツソリとこんな会話が.....。

デイヴ : (チャーリーに小声で) こっそり車に乗って、轢けば？

チャーリー : 〈自動車運転〉技能成功、ばーっ。

デイヴ : (レベッカを指して) ここは可愛そうだけど、ごめんねって。

アダムはレベッカに銃をつきつけたまま、彼女を引きずって帰宅します。そこに飛び込んでくる一台の車。

チャーリー : マスター、宣言。アダム見えた瞬間轢き殺します！(笑)

キーパー : 引きずって、近くになった途端、(レベッカを車側に向けて銃を突きつけるポーズをして) この状態で。

レベッカ : 「ハロー、チャーリー」

チャーリー : 姿を見ないようにして、行きます！(笑)

レベッカ : 問題解決すれば何でもいいのかー！

チャーリー : ごめん。

レベッカ : 謝るくらいならやるなー！

チャーリー : いや、僕は謝らない！ 「うわああああああ！」

レベッカ : .....やるんだったら殺してね。

チャーリー : 「この感触は僕は一生忘れない.....」とか言いながら。えへっ。1回轢いて、虫の息だなんて思ったら、「苦しいだろう？ ままならねえもんだねえ」(バックギアを入れる動作)がちゃん。(笑)

デイヴ : そこまでやるんか！

チャーリー : やるやるやる。やりますよー！(←ノリノリ)

レベッカ : 最期の瞬間、私の網膜に焼き付いたのは一台の車でした。運転席には朗らかに笑うチャーリーが。

オタコン : 運転席は見えないよ。見えないようにしているから、(頭を下げて) こーやって。(笑)

イーサン : チャーリーって.....。

レベッカ : 結局私に引導渡すのは、あなたなんだね.....。(笑)

キーパー : すごいなあ、アダム・ザ・バッドの想定を遙かに超えた方向に進んでいる。イベントが発動しかけていたんだけど、このタイミングでは.....。(笑)

チャーリー：また俺か。また俺の犠牲か。  
デイヴ：プレイヤーを舐めるなー！  
キーパー：.....ごめん、舐めてた。（笑）  
イーサン：尊い犠牲だ。  
レベッカ：ところで私には、何点ダメージがくるのかな？（笑）  
キーパー：何点残ってる？  
レベッカ：5点。  
オタコン：死ぬな。  
イーサン：ダメだね。  
キーパー：30km/hだから、3d6くらいかな。3d6で5以下だったら生きているよ。  
レベッカ：.....え、誰が振るの？  
キーパー：あんた。ダイスの目には自分で責任を持ちましょう。  
レベッカ：いや、チャーリーが振ってよ。  
チャーリー：いくよー！（ころころ）うん、13点！（笑）  
オタコン：そりゃそうだよな、殺す気満々だもんね！  
キーパー：.....ごめん、レベッカはどうしようもないや。（笑）  
デイヴ：ぶちゅつ。  
キーパー：で、レベッカが壁になってくれたので、アダムは半分のダメージを負う。すごい表情で立っています。  
デイヴ：結構いつているけど、死んではいない。  
オタコン：近くまで行って様子を見守る。車なら大丈夫だろう、って思いつつ。  
キーパー：ちなみにビャーキーとグールも動き始めるよ。このラウンドは、DEX順でいきましよう。  
チャーリー：DEX 8。  
キーパー：低いな。  
チャーリー：どうしようかなあ。逃げようかなあ、俺。でも、このまま逃げたらベッキー殺しだねえ。  
キーパー：DEX順でアダムからいくよ。「貴様、友達を殺すとはなんていう奴だ！」  
イーサン：お前に言われたくねえー！  
チャーリー：「（妙に冷静に、カッコよく）アダム、君に言われたくはない」  
キーパー：「可愛そうだな、ベッキーも」  
チャーリー：「（変わらずカッコよさげに）ああ、君に殺されたようなものだからね」（笑）  
レベッカ：罪のなすりつけ合いしてる.....  
デイヴ：今回の悪役決定。  
チャーリー：俺かよー！？  
デイヴ：アダムがいい人に見えてきたよ。  
チャーリー：「アダム、君、人間じゃなかったんだね。車にはねられても生きているんだから」  
キーパー：.....いや、それは当たりどころの問題だから。（笑）  
チャーリー：いいんですよ、それは！ 演出だからねー。  
キーパー：「ああ、人間以上になるためにな。もう少しだったのだが」  
チャーリー：「ならその野望、僕が断ち切ってやるよ。この銃でねー！」  
キーパー：「できるかな？」と銃をじゃきーんとやって..... 3回攻撃。  
チャーリー：俺的には、このまま車で逃げたいです。そういうわけにもいかないけどね。  
キーパー：射撃するよー。（ころころ）02。車越しだから-10%かけたんだけど、しっかりチャーリーに当たるね。  
デイヴ：動いている車でも当たるな、それは。  
キーパー：ダメージは（ころころ）11点。続いて2発目。  
チャーリー：あ、あと2点.....。

レベッカ : このままだと我々、全滅エンド？

デイヴ : 大丈夫だよ。彼は死んでもアクセルを踏み続けるから、そのまま轢くよ。

チャーリー : チャーリーの辞書にブレーキを踏むという文字はない！ アクセルベタ踏み。間違っても、手は固定したまま真っ直ぐ！

キーパー : では、ここでイベントが発動します。さっきは条件を満たす前に死んだからな。

レベッカ : 私のこと？

キーパー : 居合わせている人。【幸運】と〈心理学〉を両方振ってください。

オタコン : (ころころ) 幸運です。(ころころ) 〈心理学〉失敗。

チャーリー : (ころころ)、【幸運】成功。〈心理学〉は15%だから出ないよね。(ころころ) 出なかった。

デイヴ : あ、でも1回の判定を自動で成功することができる。

オタコン : おお、そういうのはあったね。でも、もう振っちゃったけどいい？ 今の成功したことにしたい。

キーパー : いいよ、認めよう。2つのロールに成功したので、イベントが発動します。

オタコン : はい。

キーパー : 君が「あ、俺死ぬな」思った時。アダム銃を持つ手がねじ曲がります。

チャーリー : あれか、自分に向けて撃ってくれるのか。

キーパー : 自分に向けようとして「うっ……ダメだ、早く殺してくれ！」って。

チャーリー : (躊躇なく) じゃ、ブオオオオオン。(笑)

キーパー : 一瞬、今までのアダムの表情で哀しく笑った後、弾かれる。そしてドサッと、まるで昇竜拳くらってはね飛ばされたサガットみたいに地面でバウンドする。(by『ストリートファイターII』)

レベッカ : もうちょっとマシな例えはないんですか？ いいシーンじゃないですか！(笑)

キーパー : まあ、冗談はさておき。跳ね飛ばされて血まみれに。で、ビクンビクンと痙攣しています。

チャーリー : それじゃあ車を停めてですね——あ、俺さっき『俺の辞書にブレーキはない』って言ったんですけど……まあ、ブレーキを止めて。(笑)

キーパー : 俺も今、『ブレーキないって言ったねっか！』と言おうとした。

チャーリー : で、撃たれたところを押さえながら、リボルバー片手にヒョコヒョコと彼のそばに寄っていくわけです。

レベッカ : いいシーン独占しようとしているな！(笑)

チャーリー : 美味しいね、美味しいシーンだねー。

キーパー : じゃ、再び憎々しげに見て、「最後の最後で俺の存在を知ってしまったか……！バカな奴だ、死ぬのは貴様なのにな、グッド。貴様らがいなければ……」ペッ。唾が。

チャーリー : 避けないよ僕は。べちやつ。

キーパー : 「満足か、友よ。お前のいう仲間を2人も殺してな」げらげらげら。

チャーリー : 「その業を、僕は背負っていかなければいけないんだ」——ゲイだけど！(笑)

デイヴ : 落とすなー！

チャーリー : で、ガチャツとして、「さよならだ」……ダーン。

キーパー : どこに撃つの？

チャーリー : 口の中にガスツとっこんで、パーン。(笑)

イーサン : そこまでー！？ そこまでやるのかー！

チャーリー : ダ、ダメ？ じゃ、頭につきつけて。

キーパー : かっこつきたいんで、お願いですから額に撃ってくれ。アダム・ザ・グッドが、何もしゃべれません。

レベッカ : いいなあ、一言でもしゃべる余地があつて。(笑)

キーパー : チャーリーが引き金を引く瞬間に、また顔が変わって、「ありがとう……」って。



従属の縛りがなくなったグールとビヤーカーは、その場を立ち去っていきます。  
チャーリーとオタコンは2つの死体を引きずってアダム邸に戻り、隠し部屋のイーサンと合流。  
プレイ時間のほとんどをビヤーカーと一緒に過ごしていたデイヴを救出しました。

- キーパー : 調査が完全に終わらずわからないことが残っているので、アゾット剣と一緒に日記が見つかったことにします。(笑)
- チャーリー : これからどうしたものでしょうかね。
- デイヴ : アダムは.....車で轢いた傷はわかっちゃうよね。
- レベッカ : 私は思い残しがないような顔.....なんてしているわけないんで、恨み満々で常にどっち方向でも見ているような感じで。
- デイヴ : 我々が今しなければならないことは、2つの死体を始末することだね。.....家に火をつけるか。アダムを撃ったのは誰だ？
- チャーリー : 俺。
- デイヴ : そうか、それはちょっとまずいな。奴のショットガンを使おう。バーン。これで銃創は隠れる。警察の銃っていうのは銃痕でわかっちゃう。後は石炭まいて、油つけて、火だ。俺たちはズラかろうぜ。
- レベッカ : (ナレーション調に).....今までの鬱憤を晴らすかのように生き生きと動く彼を、私は少し離れたところから見下ろしていました。(笑)
- オタコン : ごめんよベッキー、君の勇気は忘れない！何が？自分でもよくわからないけど！(笑)
- デイヴ : ベッキー、どうするかなあ。
- レベッカ : 家に放り込んで、一緒に燃やすしかないんじゃないですか？
- デイヴ : そうなっちゃうかな。彼らは林を探索して俺を見つけてきたことにして、町とは逆方向から帰ってくるのはどうだ。
- チャーリー : 銃の撃たれたケガあるんですけど、どうしましょうね？
- オタコン : 僕、僕かぎ爪のケガが.....。(笑)
- デイヴ : .....ダメだ。ズラかろう！
- レベッカ : アダムがお友達を5人招いたって話は伝わっているよね。どのみち容疑者第一号~第四号になれるよ。
- イーサン : まずいねえ。
- オタコン : ここはほら、警官とマフィアの手で何とかしよう。
- チャーリー : もみ消せないよー！警官やめます。で、謎の失踪を遂げたと。
- レベッカ : これ.....私がいうのもあれですけど、全部ベッキーのせいにするっていうのも手だと思うんですよ。
- デイヴ : だからショットガン使ったの。
- レベッカ : だからその線で押し通す。遊びに来た5人のうちベッキーとアダムが言い合いになって、ベッキーはアダムを殺して自分を.....逆でもいいんですけどね。
- チャーリー : 痴情のもつれか。
- レベッカ : そしてベッキーは家に火をつけた。お友達4人は止めようとしたんだけど、止められなくて傷を負った。
- デイヴ : それだー！
- オタコン : 僕のかぎ爪は？
- レベッカ : 私が刃物を振り回した、でいい。見立てるお医者さんはイーサンでしょ。どうせこのお巡りさんは、あのおじいちゃんなんだし。
- キーパー : そんな話だったのか。(笑)
- レベッカ : 問題は車なんだけどね.....。



デイヴ : いや、車なんて何とでもなる。重傷者を運ぼうと慌てて、ハンドル切り損ねて木にぶつけた。OK。

イーサン : それがいいかも。

デイヴ : 車なんて壊すつもりだったらいくらでも壊せる。交通事故は人間を殺す時に一番わからない方法だっていうのはな、土郎正宗先生も言っているんだぞ。(by『攻殻機動隊』)

チャーリー : そ・れ・だー！

と、事後処理は無事に(?)終了。

一切の処理を終わらせた探索者達は、そそくさとニューヨークに戻ります。

## EPILOGUE

- キーパー : 日記の内容から、大体の事情がわかります。——彼、真の狂気に至った時に、治ったように見えて治ってなかったんです。彼が発症していたのは分裂症。
- イーサン : うわー。アダムを見ておけばよかったのかー。
- キーパー : 前回の事件で奴は運良く、かっこ運悪く『妖蛆の秘密』なんぞを手に入れてしまい、読んで狂気を悪化させた、と。
- イーサン : ああー。狂気に陥るもんなあ。
- キーパー : この日記はブラックの日記。自分が生まれたことについて、みたいなことが延々と書いてある。
- レベッカ : この隠し部屋、ブラック・ルームだったのか。
- キーパー : ホワイトが主人格で、ブラックは週に1回くらいのペースで表に出ていたらしい。で、あの部屋はブラックの研究施設だった。ホワイトはブラックの存在を知らなかったけど、ブラックはホワイトに対し内部から干渉をすることはできた。だから鍵のかかった部屋の存在も、ある程度意識から反らさせていた。ブラックは、ハスターを招来してグッドの心を消してもらおうと思った。
- イーサン : 邪魔になったんだ。
- キーパー : ちなみに、マーガレットを追い詰めてアレしてしまったのは、彼女がいるとホワイトの人格が強くなっちゃうことと、彼女は生活に密着していたから、週に1回の奇行といってもバレる危険があったから。
- デイヴ : 結局、何をしたの？
- キーパー : ビヤーキー喚んで、いろいろとチョメチョメな事をしたようです。
- デイヴ : ビヤーキーの落とし子っていうのはありえるわけ？
- キーパー : いいえ。彼自身も関与したらしいので、産まれるとしても人間の子供です。とはいえ『だったら何故殺さなかったのか？』という俺自身のつつこみにより、変なのが産まれます。いわゆる、『ハスターに捧げられた者』って奴ですな。妙な成長速度じゃないんで、この段階ではわからんけどな。
- イーサン : この場合、どうしたらいいんだろうね。
- チャーリー : どうしてみようも……。
- デイヴ : 我々は、その危険を知らないからね。
- キーパー : そして行方不明の2人と家畜は、彼が立派に儀式に使いましたとき。
- レベッカ : ブラックは、ビヤーキーもグールも支配下に置いていたの？
- キーパー : 両方とも支配下に置いていた。インディアンの埋葬所にはグールの住処があったんだけどね。
- チャーリー : ああ、なるほどなるほど。
- キーパー : ちなみにビヤーキーの皆様方の住処は、君たちも知っているあそこ。(笑)
- イーサン : あそこに住んでいるのか。なんて危険な屋敷だ、ここは！
- デイヴ : 俺、〈クトゥルフ知識〉ついたよね。ビヤーキーの生態学とか覚えたよ。ビヤーキーは攻撃体勢を取る前にこういう格好をする、とか。(笑)
- キーパー : デイヴは4日後の儀式用に生かしておく予定だったんだけど、動かせないから、正直アダム・グッドでも動かしてもらおうかななどでも思っていたんだけど。
- デイヴ : でも、俺がそれをやった瞬間に完全に疑われるか、プレイヤーがやるってことは白なんだ、ってメタな情報が入っちゃうからやめた方がいい、と。
- キーパー : で、悪い、4日目か最終日までは再登場が無理だから……。
- デイヴ : 裏ネタを教えてもらって、俺はニヤニヤしながら見ていたんだよ。
- キーパー : オタコンは——ごめんなさい——完全に殺す気でいたんですが。〈隠れる〉ロール、1回でも失敗したら終わりだったし。なのに何故か、致命的なロールをほとんど成功しやがったんで。(笑)

- オタコン : しやがったって。でも、なんでこの人生きているんだろう。おかしいよ。
- イーサン : うんうん。だってねえ、低い可能性だったもんねえ。
- デイヴ : 俺、ここまで簀巻きにされたことってないね。ゲームの三分の二は寝ていたわけだし。今回、俺、生きていられるとは思わなかった。
- オタコン : 今回、僕も生きていられるとは思いませんでした。
- レベッカ : 私は生きていられると確信していました。
- イーサン : そ、そうだね。
- チャーリー : なんだかんだいって、一番美味しいシーンごちそうさまでした。いやあ、いいセッションだったー。(笑)
- キーパー : これでよかったかどうか、非常に疑問なんだが……。というわけでみなさん、お疲れさまでした。

というわけで、無事――ではない人も約一名いますが――セッション終了です。お疲れ様でしたー。

おしまい。